

石尺遺跡

—7次調査—

福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査
春日市文化財調査報告書 第87集

2021

春日市教育委員会



調査区全景（右が北）

序

春日市は福岡市の南東部に位置しており、古来より住環境に優れた場所として、数多くの遺跡が存在していることが知られています。特に、市の中央部を南北に延びる春日丘陵には、奴国の王墓を有する須玖岡本遺跡を筆頭に、弥生時代の傑出した遺跡が密集しており、この一群を須玖遺跡群と称し、奴国の王都であったと推定されています。

ここに報告する石尺遺跡は、春日丘陵西側の台地に位置する弥生時代から古墳時代、中世の集落跡で、集合住宅を建設する際に発見されたものです。記録保存のために行った発掘調査によって、当遺跡からは弥生時代中期前半の溝と、その溝を埋めた後造られた多数の弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴建物跡、そして12世紀前後の遺構が確認されました。過去に近隣で行われた発掘調査では、弥生時代中期前半と奈良時代を主体とする遺構が多く、地域の歴史を補完する貴重な成果を得ています。

重要な遺跡の報告書といたしましては、内容の不十分さは免れませんが、本報告書が学術的研究だけでなく広く一般の方々にも利用され、地域の歴史や埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いです。なお、発掘調査から本報告書の作成に際しまして、御指導、御協力を賜りました多くの方々へ深く謝意を表します。

令和3年3月31日

春日市教育委員会
教育長 扇 弘 行

例言

- 1 本書は春日市教育委員会が平成 29 年度に実施した、集合住宅建設に伴う石尺遺跡（7 次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 遺構の実測は山崎悠郁子、新原正典、伊藤祐太郎が行い、製図は吉村美保が行った。
- 3 遺物の実測は山崎、久家春美、片多浩美、織田優子、竹田祐子、吉田薫、製図は久家、片多、織田、竹田、吉田が行った。
- 4 掲載写真は遺構を山崎、空中写真を有限会社空中写真企画が撮影し、遺物については株式会社タクト（西村新二氏）、山崎が担当した。
- 5 本書の遺構実測図に用いた方位は座標北である。
- 6 本書で使用した図面、写真、遺物は春日市奴国の丘歴史資料館にて保管する。
- 7 本書の執筆および編集は山崎が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	2
III	調査の内容	5
1	調査の概要	5
2	遺構	7
(1)	弥生時代の遺構	7
①	竪穴建物跡	7
②	土坑	10
③	溝	13
④	ピット	13
⑤	包含層	15
(2)	古墳時代の遺構	15
①	竪穴建物跡	15
②	土坑	20
(3)	歴史時代の遺構	20
①	土坑	20
②	溝	22
3	遺物	25
(1)	土器	25
(2)	土製品	42
(3)	鉄器・鉄滓	52
(4)	玉類	55
(5)	中型	55
(6)	石器・石製品	56
IV	まとめ	63

図 版 目 次

巻頭図版	調査区全景（右が北）	図版11	土器①
図版1	(1) I区全景（東から）	図版12	土器②
	(2) II区全景（東から）	図版13	土器③
図版2	(1) 1号竪穴建物跡（北から）	図版14	土器④
	(2) 2号竪穴建物跡（北から）	図版15	土器⑤
	(3) 1・4号竪穴建物跡（北から）	図版16	土器⑥
図版3	(1) 4号竪穴建物跡土器出土状況（西から）	図版17	土器⑦
	(2) 7号竪穴建物跡（南から）	図版18	(1) 土製品
	(3) 2・8号竪穴建物跡（西から）		(2) 鉄滓
図版4	(1) 11号竪穴建物跡（南から）		(3) 管玉
	(2) 12号竪穴建物跡（南から）	図版19	鉄器
	(3) 5・15号竪穴建物跡（北から）	図版20	(1) 石器・石製品①
図版5	(1) 15号竪穴建物跡床面遺物出土状況 （北から）		(2) 石器・石製品②
	(2) 10・16号竪穴建物跡（北から）	図版21	(1) 石器・石製品③
	(3) 1号土坑（南から）		(2) 石器・石製品④
図版6	(1) 4号土坑・P79（北から）		(3) 石器・石製品⑤
	(2) 6号土坑（南から）	図版22	(1) 石器・石製品⑥
	(3) 8号土坑（北東から）		(2) 石器・石製品⑦
図版7	(1) 10号土坑（北から）	図版23	(1) 石器・石製品⑧
	(2) 11号土坑（北から）		(2) 石器・石製品⑨
	(3) 11号土坑土器出土状況（北から）		
図版8	(1) 12号土坑（北から）		
	(2) 14号土坑（北から）		
	(3) 15号土坑（南東から）		
図版9	(1) 1号溝（北から）		
	(2) 1号溝B-B'断面土層（北から）		
	(3) P1鉄器出土状況（北から）		
図版10	(1) P67鉄器出土状況（西から）		
	(2) P78土器出土状況（東から）		
	(3) P454土器出土状況（北から）		

挿 図 目 次

第1図	石尺遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)	3
第2図	石尺遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図	石尺遺跡7次調査遺構配置図 (1/200)	6
第4図	1・2号竪穴建物跡実測図 (1/60)	8
第5図	3・4・14号竪穴建物跡実測図 (1/60)	9
第6図	5・6・7号竪穴建物跡実測図 (1/60)	11
第7図	8号竪穴建物跡実測図 (1/60)	12
第8図	1・2・3・4・5・19・20号土坑実測図 (1/30)	14
第9図	6・7号土坑実測図 (1/30)	15
第10図	1号溝土層・ビット実測図 (1/30)	16
第11図	9・10号竪穴建物跡実測図 (1/60)	17
第12図	11・12・13号竪穴建物跡実測図 (1/60)	18
第13図	15・16・17号竪穴建物跡実測図 (1/60)	19
第14図	8・9号土坑実測図 (1/30)	21
第15図	10・11・12・14号土坑実測図 (1/30)	23
第16図	15・16・17・18号土坑実測図 (1/30)	24
第17図	2号溝土層実測図 (1/30)	24
第18図	1・2・3号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/4)	26
第19図	4号竪穴建物跡出土土器実測図① (1/4)	27
第20図	4号竪穴建物跡出土土器実測図② (1/4)	28
第21図	4号竪穴建物跡出土土器実測図③ (1/4)	29
第22図	8・10号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/4)	29
第23図	1・7号土坑出土土器実測図 (1/4)	30
第24図	1号溝出土土器実測図① (1/4)	31
第25図	1号溝出土土器実測図② (1/4)	32
第26図	ビット出土土器実測図 (1/4)	32
第27図	P454出土土器実測図 (1/4)	33
第28図	包含層出土土器実測図 (1/4)	33
第29図	9・11・12・14・15号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/3)	34
第30図	17号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/3)	35
第31図	10号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/3)	36

第32図	10号土坑出土土器実測図 (1/3)	36
第33図	9・14・19号土坑、P114出土土器実測図 (1/3)	37
第34図	11号土坑出土土器実測図 (1/3)	39
第35図	12・15・16・17・18号土坑出土土器実測図 (1/3)	40
第36図	2号溝出土土器実測図 (1/3)	40
第37図	ピット出土土器実測図 (1/3)	41
第38図	包含層出土土器実測図 (1/3)	42
第39図	土製品実測図 (1/2)	42
第40図	鉄器実測図① (1/2)	53
第41図	鉄器実測図② (1/2)	54
第42図	鉄滓実測図 (1/2)	54
第43図	管玉実測図 (1/2)	54
第44図	中型実測図 (1/2)	54
第45図	竪穴建物跡出土石器・石製品実測図① (1/2)	57
第46図	竪穴建物跡出土石器・石製品実測図② (1/2)	58
第47図	竪穴建物跡、土坑出土石器・石製品実測図 (1/2)	59
第48図	1号溝出土石器・石製品実測図 (1/2)	59
第49図	2号溝出土石器・石製品実測図 (1/2)	60
第50図	ピット出土石器・石製品実測図 (1/2)	61
第51図	検出時出土石器・石製品実測図 (1/2)	61
第52図	包含層出土石器・石製品実測図① (1/2)	62
第53図	包含層出土石器・石製品実測図② (1/2)	63
第54図	石尺遺跡遺構配置図 (1/1,000)	66

表 目 次

表 1	出土土器観察表	43
表 2	出土土製品観察表	52
表 3	出土鉄器・鉄滓観察表	55
表 4	出土石器・石製品観察表	67

I はじめに

1 調査に至る経過

今回の7次調査は、平成28年7月に下白水南4丁目に集合住宅建築の計画があると報告があり、石尺遺跡の包蔵地内であったことから、遺構の有無を確認するため平成28年8月5日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果遺構が確認されたため、地権者と春日市教育委員会で埋蔵文化財保護に関する協議を行い、616㎡を緊急発掘調査することとなった。発掘調査は受託事業として、平成29年4月10日から10月17日まで実施し、報告書作成は令和2年度を中心に行った。

2 調査の組織

発掘作業および整理作業における調査体制は次のとおりである。

発掘調査（平成29年度）

教育長	山本 直俊
教育部長	西岡 純三
文化財課長	神崎 由美
管理担当	
統括係長	小林 達朗
主 査	伊藤 かおり
主 任	佐伯 廣宣
主 査	飛永 宗俊
囑 託	矢越 敏治
調査担当	
課長補佐	中村 昇平
主 査	吉田 佳広
主 査	森井 千賀子
主 査	塩足 かおり
主 任	山崎 悠郁子
囑 託	川村 博
囑 託	種生 優美
囑 託	伊藤 祐太郎

報告書作成（令和2年度）

教育長	扇 弘行
教育部長	神田 芳樹
文化財課長	高田 勘治
整備活用担当	
統括係長	高田 博之
主 査	森井 千賀子
主 査	大原 佳瑞重（～6月）
主 査	飛永 宗俊
主 査	塚本 雅代（7月～）
会計年度任用職員	和田 奈緒
会計年度任用職員	西尾 純司
調査保存担当	
課長補佐	中村 昇平
主 査	吉田 佳広
主 査	井上 義也
主 任	山崎 悠郁子
主 事	熊笹御堂 早和子
会計年度任用職員	川村 博
会計年度任用職員	種生 優美
会計年度任用職員	下田 詩織
会計年度任用職員	田中 健

II 位置と環境

春日市は福岡平野の東南端に位置し、市域中央を南の脊振山系から北に延びる丘陵が縦断する。この丘陵を挟んで東側に御笠川、西側に那珂川が博多湾に向かって北流し、丘陵上には弥生時代を中心とした遺跡が多く分布する。とくに丘陵北半部の一帯は、弥生時代中期から後期にかけての重要な遺跡が密集しており、須玖遺跡群と称される。その中でも奴国王墓や青銅器工房跡が発見された須玖岡本遺跡は、中国の史書に記された奴国の中心として全国的に知られている。

石尺遺跡は、春日市の西南部にあたる下白水南4丁目付近に所在する。当地一帯は、春日丘陵の西部を流れる那珂川支流の梶原川東岸に形成された標高27～30mの中位段丘面にあたる。この中位段丘は北東に向かって緩やかに傾斜しており、石尺遺跡は最も東に位置する。段丘上には石尺遺跡をはじめ、寺田・長崎遺跡、中白水遺跡、門田遺跡、天神ノ木遺跡など弥生時代から古墳時代、中世を主体とする集落跡が確認される。また、石尺遺跡の北方600mには下白水大塚古墳、西方500mには日押塚古墳が造営され、南方1kmには7世紀に寺院等に供給するため瓦を製作したウトグチ瓦窯跡、南方750mには大土居・天神山水城跡（小水城）等の貴重な遺跡が所在する。

旧石器時代は、遺構を確認できず、文化面や地表面で遺物が確認されたのみである。縄文時代は、門田遺跡や百堂遺跡で早期の石組炉、柏田遺跡で中期～後期の住居跡などが確認される。

弥生時代は、前期の遺跡はいずれも小規模であるが、門田遺跡で前期末の貯蔵穴と甕棺墓が確認されているほか、門田遺跡東方の中白水遺跡、寺田・長崎遺跡、天神ノ木遺跡で集落の萌芽が見られる。これらの集落は、中期前半以降に拡大し古墳時代初頭まで継続する。これに呼応して墓地も展開していき、特に門田遺跡では首長級の墳墓が確認される。前述の須玖遺跡群でも弥生時代中期前半頃から後期にかけて急増しており、石尺遺跡一帯の集落も同じ傾向を示している。

古墳時代になると、集落は弥生時代と比べ減少するが、日押塚古墳や下白水大塚古墳等の5～6世紀代の古墳が造営され、門田遺跡、柏田遺跡、天神ノ木遺跡、原遺跡などで小規模な集落が展開する。

飛鳥時代以降になると、大土居・天神山水城跡が築造される。この水城跡は『日本書紀』に記載され、白村江敗戦後、天智3年（664）に西海道最大の官衙である大宰府の防衛線として築造されたものである。この時、太宰府市と大野城市の市境に築かれた約1.2kmにわたる長大な土塁（水城大堤）だけでなく、水城大堤から西方の小さな谷を塞ぐために小規模な水城（小水城）が複数築かれた。大土居・天神山水城跡はこの小水城一つで、当地より西部では確認されないことから大宰府防衛線の西端になると推測されている。

中世以降は、中白水遺跡で方形居館跡が確認され、建久3年（1192）の「石清水検校成清謚状」（石清水文書『鎌倉遺文』第二巻）から、石清水八幡宮の所領であった白水庄という荘園になるとされ、ここを中心に複数の遺跡で中世の遺構が検出されている。さらに実態は不明だが、『筑前国続風土記』には、北方に天浦城という16世紀代に筑紫氏の家臣であった島鎮慶の居城があったと記される。



- | | | | | | | | |
|-------------|------------|--------------|-----------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 1 石尺遺跡 | 2 天神池遺跡 | 3 寺田・長塚遺跡 | 4 重久遺跡 | 5 下ノ原遺跡 | 6 下立間遺跡 | 7 古水遺跡 | 8 赤木原遺跡 |
| 9 川久保遺跡 | 10 林道遺跡 | 11 上ノフタ遺跡 | 12 通川遺跡 | 13 野藤遺跡 | 14 日佐遺跡 | 15 上白佐遺跡 | 16 日神塚古墳 |
| 17 辻塚遺跡 | 18 中白水遺跡 | 19 門内遺跡 | 20 船川遺跡 | 21 下原遺跡 | 22 天神ノ木遺跡 | 23 原遺跡 | 24 百室遺跡 |
| 25 ウトグチC遺跡 | 26 ウトグチB遺跡 | 27 惣塚池遺跡 | 28 内野遺跡 | 29 池ノ内遺跡 | 30 天神山本城跡 | 31 池ノ内C遺跡 | 32 池ノ内B遺跡 |
| 33 大上原水城跡 | 34 ウトグチA遺跡 | 35 白水池古墳群 | 36 イダ古墳群 | 37 橋ノ木遺跡 | 38 岩塚古墳群 | 39 大寺田遺跡 | 40 巖前山古墳群 |
| 41 西原遺跡 | 42 イダ古墳群 | 43 池ノ原塚群 | 44 赤良塚群 | 45 菅野塚A遺跡 | 46 菅野塚B遺跡 | 47 サツコドン遺跡群 | 48 伊井川遺跡群 |
| 49 今立・地金遺跡群 | 49 日勝寺古墳 | 50 中塚・ヒメタ遺跡群 | 51 松木遺跡群 | 52 中塚寺ノ内遺跡群 | 53 屋敷ノ内遺跡群 | 54 合政遺跡群 | 55 伊井川遺跡群 |
| 56 神遺跡群 | 57 船川遺跡群 | 58 岡塚古墳群 | 59 カナツ古墳群 | 60 下野原山遺跡群 | 61 下片岡古墳群 | 62 飯堂遺跡群 | 63 伊井川遺跡群 |
| 63 下野古墳群 | 64 野口遺跡群 | 65 野口遺跡 | | | | | 64 野口遺跡群 |

第1図 石尺遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)

Ⅲ 調査の内容

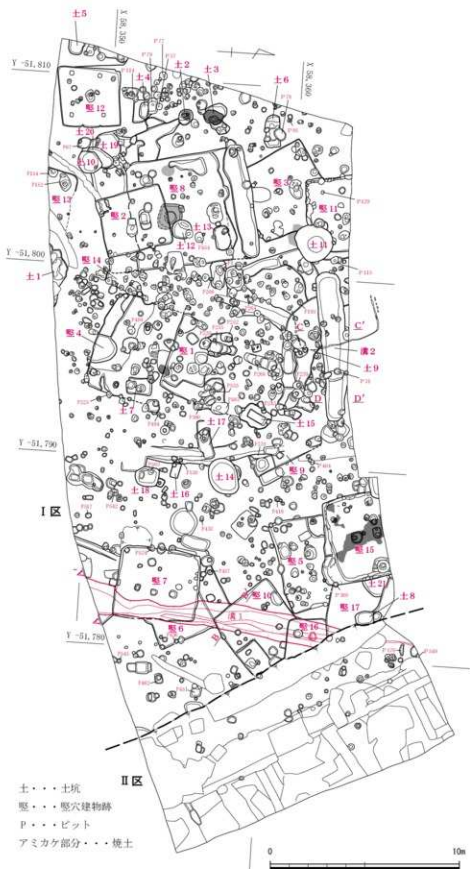
1 調査の概要

石尺遺跡は弥生時代中期前半から古墳時代にかけての集落を中心とした遺跡で、下白水南3丁目から4丁目にかけての南北約360m、東西約190mの範囲に展開する。本遺跡の発掘調査は1～7次に及び、今回の7次調査は包蔵地の北側に立地する。

1次調査は、平成8年に実施した。弥生時代中期中頃の集落が主体であり、竪穴建物跡や掘立柱建物跡、土坑、南北方向に延びる弥生時代後期後半に埋没した溝を確認している。また北東から南西方向に延びる溝を検出しているが、出土遺物から6世紀末に埋没したと考えられる。2次調査は平成10年に実施した。1次調査地点から道路を挟んだ南方約10mに位置し、弥生時代中期中頃の竪穴建物跡と掘立柱建物跡、土坑、溝や、古墳時代の竪穴建物跡、南北方向へ向かう直線的な溝とこの溝に並行したL字状の溝などを検出している。このうち弥生時代と古墳時代の直線的な溝は、1次調査区東端で確認された溝とつながる。3次調査は、7次調査の南東約40mに位置し、平成14年度に調査を実施した。弥生時代中期前半の竪穴建物跡と土坑を主体とし、遺構密度は低い。1・2次調査で確認した6世紀代の遺構は3次調査地点まで広がらない。龍泉窯系青磁が溝から出土している。4・5次調査は平成24年度に実施した。4次調査は7次調査の南西40mに位置する。弥生時代中期前半の直径10mを超える円形竪穴建物跡の一部を確認している。5次調査は、3次調査の南側隣地に位置する。調査区の東南部に南西から北西方向の自然流路があり、1・2次調査地点で確認された弥生時代の溝はこの流路の南側では確認できていない。弥生時代の集落の東南端にあたと推定されている。

7次調査地の東部1/3は、アパートを造成のため数十cm切り下げられていた。土置き場と悪天候、アパートの解体が遅れた関係で、調査は西から2/3をⅠ区、アパート部分をⅡ区として契約期間を延長して調査を行っている。Ⅰ区では、重機を使い表土を10cm除去すると弥生時代から中世の遺物を含む黒褐色の包含層が現れ、この包含層を10～50cm掘り下げたところ橙褐色粘質土を基本とする地山を確認し、黒褐色系と灰暗褐色系の土で埋まった遺構を検出した。出土遺物から黒褐色系が弥生時代から古墳時代、灰暗褐色系が中世の遺構と認識している。東側の地山が約10cm高く、遺構は全面に分布し密度は非常に高かったものの、竪穴建物跡の大半が10～20cmで床面に達するなど残存状況は良いとは言いがたい。また、竪穴建物跡は切合いを調査の際に把握してきちんと検出することが出来ず、1・8・17号竪穴建物跡については整理段階で復元している。また、掘立柱建物跡も本来は各時代に存在していたと思われるが、現地では検出しきれなかった。

発掘調査の結果、弥生時代～古墳時代の竪穴建物跡17軒、弥生時代中期前半の溝1条、中世の溝状遺構1条、弥生時代～中世の土坑21基、ピット多数を検出した。



第3図 石尺遺跡7次調査遺構配置図 (1/200)

2 遺構

(1) 弥生時代の遺構

① 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡 (図版2-(1)・(3)、第4図)

I区の中央部で建物跡の南東隅から約1/4を検出した。4号竪穴建物跡を切る。地山が北に向かって傾斜しており、床面までの深さは最も残りの良い南側で15cmである。西側と北側は検出できなかった。床面に貼り床はない。建物の形状は長方形で、東隅に幅85cmの地山切り出しのベッド状遺構を設ける。地山の状況からみると西側にもベッド状遺構を設けている可能性はあるが、現地では判断することが出来なかった。掘り込み状の炉は確認できなかった。主柱穴は東西方向に2本。柱穴は段掘りされている。建物跡の時期は出土遺物から弥生時代後期のものと考えられる。

2号竪穴建物跡 (図版2-(2)・3-(3)、第4図)

I区の南西部で確認した。8号竪穴建物跡を切る。検出規模は3.6m×3.2mの南北に長い方形で、床面までの深さは15cmである。主柱穴は検出できなかった。床面は貼り床になっていた。出土遺物は弥生時代後期だが、他の遺構の切り合い関係や平面形態から古墳時代初頭になる可能性がある。

3号竪穴建物跡 (第5図)

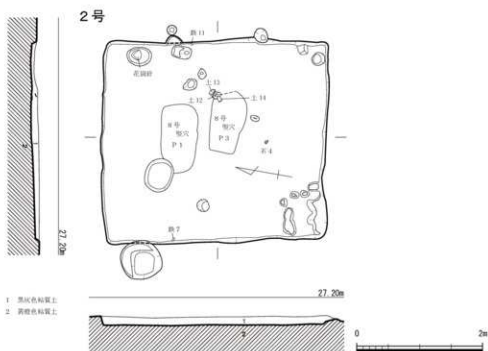
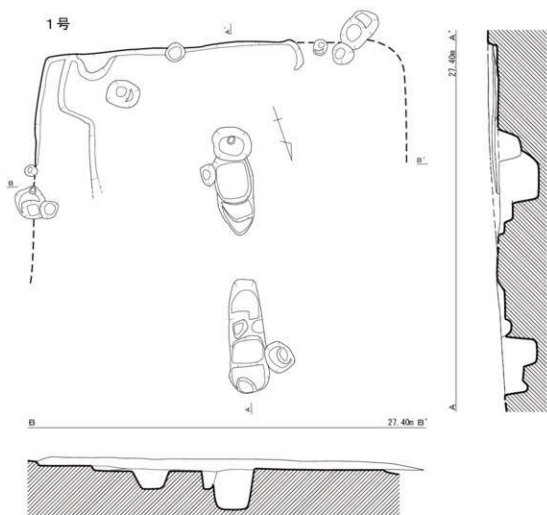
I区の北西部で検出した。検出規模は4.3m×4.2mを測る。南側を8号竪穴建物跡、北側を11号竪穴建物跡に切られる。床面までの深さは6cmと最も残存状況が悪い。貼り床は確認できなかった。中央に炉を設け、南北方向に2本の主柱穴を設ける。柱穴の検出状況から、北側には地山切り出しのベッド状遺構が設けられていた可能性がある。出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

4号竪穴建物跡 (図版2-(3)・3-(1)、第5図)

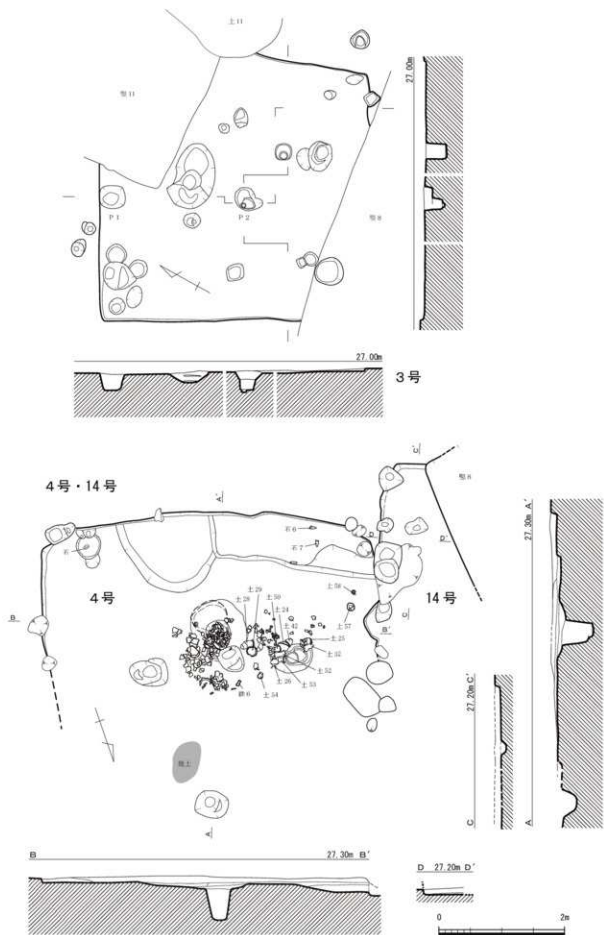
I区の中央部南側で検出し、北側を1号竪穴建物跡、西側を14号竪穴建物跡に切られる。検出規模は幅5.3mで、最も残りの良い南東側で床面までの深さは20cmである。南西隅に地山削り出しのベッド状遺構を設ける。南側には半円形の幅125cmの屋内土坑を設ける。床面は貼り床で整えており、中央に掘り込みはないが幅65cmの焼痕が残る。主柱穴は2本である。建物跡の南では西側から主柱穴付近に、床面直下から遺構検出面まで15cmの覆土から土器がまとまって出土した。検出面では器台と器台に乗っていたと思われる鉢や小型の壺が、西に向かって倒置した状態でみつまっている。土器は南側の主柱穴にも詰まっており、竪穴建物跡を使わなくなった際に何らかの祭祀行為を行い埋め戻したと考えられる。出土遺物から弥生時代後期前半が主体と考えられる。

5号竪穴建物跡 (図版4-(3)、第6図)

I区の北東部で検出した。北側を15号竪穴建物跡と17号竪穴建物跡に切られる。検出規模は4.85m×2.8mで、床面までの深さは12cmである。貼り床は確認できなかった。西側中央に地山切り出



第4图 1·2号竖穴建物跡実测图 (1/60)



第5图 3·4·14号竖穴建物跡实测图 (1/60)

しのベッド状遺構を設ける。炉は確認できなかつた。主柱穴は2本と思われるが南側の1本しか確実ではない。北側は15号竪穴建物跡の主柱穴と重なる可能性がある。主柱穴の位置関係から西側にはベッド状遺構が設けられる可能性がある。出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

6号竪穴建物跡（第6図）

I区南東部で検出した。7号竪穴建物跡と10号竪穴建物跡に切られる。検出規模は長軸4.25m、短軸約4.0mを測る。北側に幅105cmの地山切り出しのベッド状遺構を設ける。床面に貼り床は確認できなかつた。主柱穴は、7号竪穴建物跡に大きく切られるため確認できない。出土遺物から弥生時代後期のものと思われる。

7号竪穴建物跡（図版3-(2)、第6図）

I区南東部で検出した。6号竪穴建物跡を切る。検出規模は4.4m×3.7m、床面までの深さは26cmあり、床面直上で今山産の磨製石斧の基部と袋状鉄斧を確認した。平面形は方形をしており、西壁側に幅15cmの溝を設ける。ベッド状遺構、貼り床は確認できなかつた。主柱穴は2本あり、柱が中心から東側によっているため、東側にはベッド状遺構が作られていた可能性がある。出土遺物から、弥生時代後期後半と思われる。

8号竪穴建物跡（図版3-(3)、第7図）

I区西部で検出した。2号竪穴建物跡に切られる。床面までの深さは最も深い場所で15cm程度である。調査中に竪穴建物跡として認識することが出来ず、整理中に図上復元した。検出規模8m×5.8mを測る。北側に幅150cmの地山切り出し、南側に幅170cmの盛土で形成したベッド状遺構を設ける。床面は貼り床で整え、特に南北両端は浅く溝状に掘りくぼめた後、灰褐色粘質土が混じる土で充填している。中央には炭と焼土の詰まった検出規模120cm×134cm、深さ12cmの円形の掘り込みがあり、炉になると思われる。炉を挟んで南北それぞれに主柱穴が1本ずつ立つ。主柱穴のそばに同規模のピットがあることから建て替えを行った可能性がある。建物跡の中央より東側からは集石と焼土、西側からは完形の甕を正置した状態で埋めたP434を検出している。出土遺物から建物の時期は弥生時代後期のものと考えられるが、土器は大半が小片で、弥生時代中期前半～中頃の摩耗した土器が多量に混入していた。

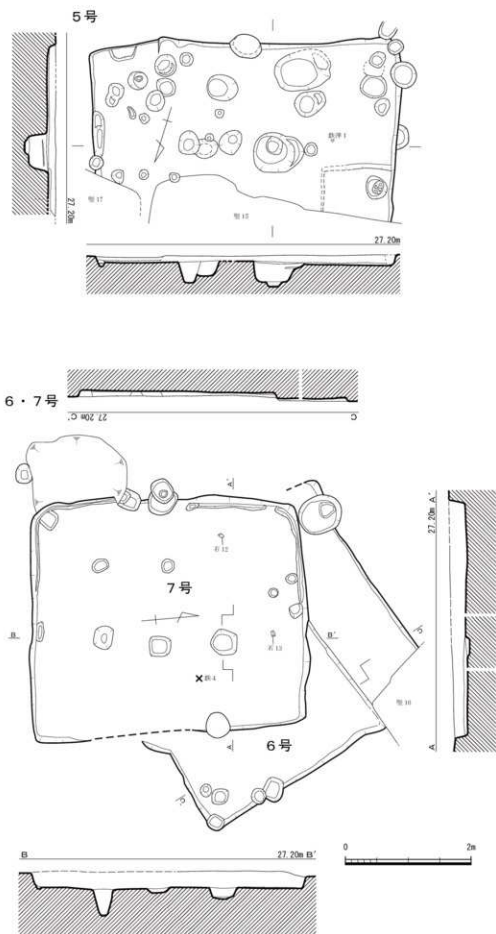
②土坑

1号土坑（図版5-(3)、第8図）

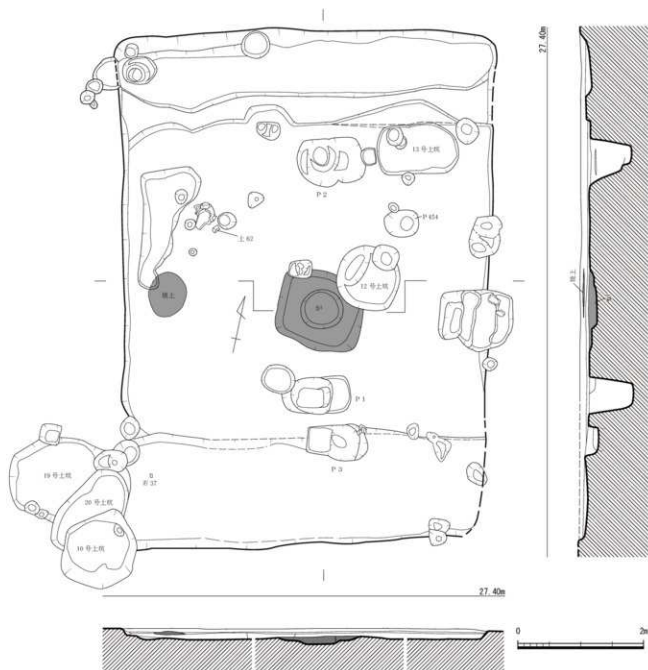
I区南西部で検出した。西側は大きな攪乱に切られる。床面は至で用途はよくわからなかつた。出土遺物から、弥生時代中期と考えられる。

2号土坑（第8図）

I区西部で検出した。検出規模75cm×86cm、深さ19cmを測る楕円形の土坑である。ほぼ中央部に5cm程度の厚みで焼土と墨が堆積していた。周辺には削平された竪穴建物跡が複数切り合っており、竪穴建物跡に伴う炉の可能性もある。弥生土器が出土していたが、小片のため図示しえない。



第6圖 5・6・7号竖穴建物跡実測圖 (1/60)



第7図 8号竖穴建物跡実測図 (1/60)

3号土坑 (第8図)

I区西部で検出した。長軸159cm×短軸120cm、深さ25cmの不整形な土坑である。覆土には焼土と炭が認められたが、壁面は焼けていない。周辺には削平された竖穴建物跡が複数切り合っており、竖穴建物跡に伴う炉の可能性もある。弥生土器が出土していたが、小片のため図示しえない。

4号土坑 (図版6-(1)、第8図)

I区南西部で検出した。P79に切られる。検出規模88cm×50cm、深さ32cmを測る南北方向にやや長い方形の土坑である。床面は平らで、中央に不定形な掘り込みが2か所みられる。墓の可能性も

検討したが、断定できなかった。覆土は橙褐色の土塊を含む黒褐色土で、一度に埋没しており、層は確認できなかった。覆土から、管玉が1点出土したが土器はいずれも小片で時期の特定に至らなかった。

5号土坑（第8図）

I区の西端で約1/2を検出した。検出規模84cm×49cm、深さ6cmを測る円形乃至楕円形の土坑である。覆土からは弥生土器の小片と砥石が出土した。

6号土坑（図版6-(2)、第9図）

I区の北西部で検出した。検出規模84cm×175cm、深さ27cmを測る長方形の土坑である。P78に切られる。床面は中央が最も窪む。覆土からは弥生土器の小片が出土していたが時期の特定に至らなかった。P78から出土した土器が弥生時代後期以降に属することから、それ以前の遺構と思われる。

7号土坑（第9図）

I区の中央部で検出した。4号竪穴建物跡とP329に切られる。検出規模134cm×82cm、深さ32cmを測る長方形の土坑である。床面は平らである。覆土からは弥生時代中期中頃の壺の口縁部が出土している。

19号土坑（第8図）

I区の南西部で検出した。10号土坑に切られる。検出規模193cm×135cm、深さ19cmを測る歪な円形の土坑である。すり鉢状に掘削される。検出時に鉄器、床面近くでは弥生土器を確認している。出土遺物から弥生時代後期のものと思われる。須恵器や陶磁器も出土したが検出面での出土のため、包含層からの混ざりこみと思われる。

20号土坑（第8図）

I区の南西部で検出した。19号土坑を切り、10号土坑に切られる。検出規模151cm×85cm、深さ22cmの楕円形の土坑である。検出時に鉄器の細片が出土した。弥生土器片が出土しているが、小片のため図示しえない。

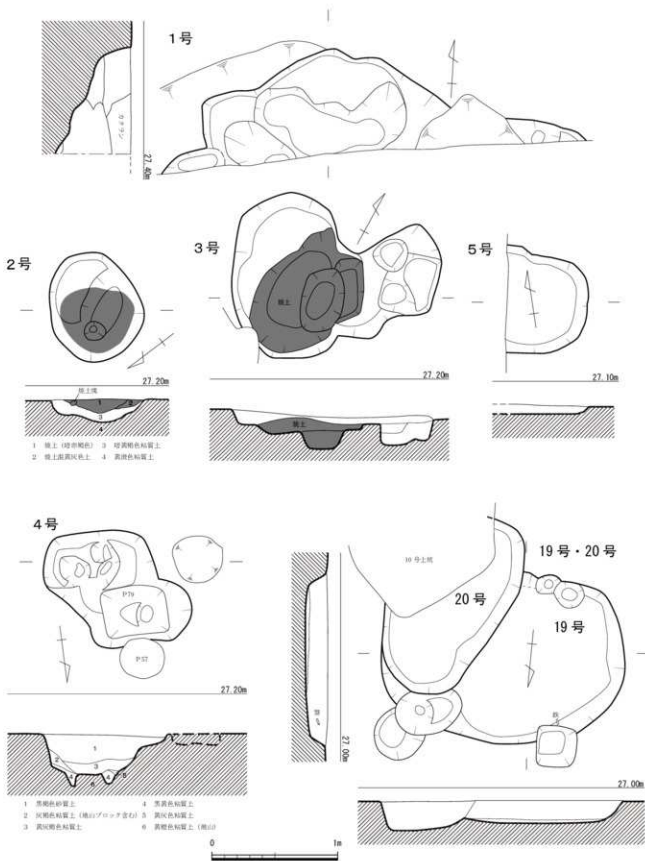
③溝

1号溝（図版9-(1)・(2)、第10図）

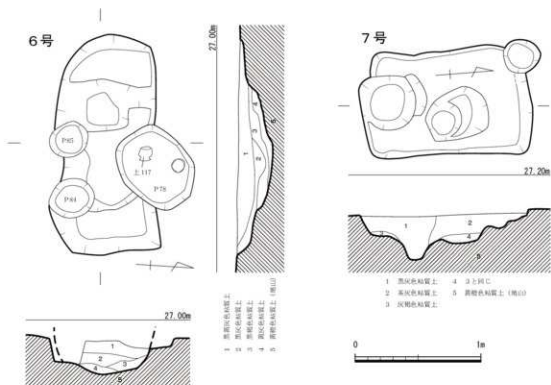
I区東部で検出した。幅約170cmで南西から北東方向に延びる。北側は現代の擾乱により下端の一部しか残存していない。溝は6・7・10・16・17号竪穴建物跡に切られる。調査区の南壁と検出した溝の中央部にベルトを設定し土層を観察したところ、一度自然堆積で埋まった後に掘り直された可能性がある。覆土からは弥生時代中期前半の土器が多量に出土した。

④ピット（図版9-(3)～10-(3)、第10図）

I区全体で多数のピットを検出した。本来は掘立柱建物跡の柱穴とすべきものが多数存在するが、調査時に建物として認識することが出来なかった。また、ピットの中には最大長100cmを超えるもの



第8圖 1・2・3・4・5・19・20号土坑実測圖 (1/30)



第9図 6・7号土坑実測図 (1/30)

が少数あり、それらは削平され壁面が消失した竪穴建物跡に伴っていた可能性が高い。遺物が出土したピットは576個であり、その内、本報告において図示した遺物が検出された45個のピットには遺構配置図に番号を付している。また、P255に関しては1号竪穴建物跡、P454については8号竪穴建物跡に伴うと認識している。

⑤包含層

調査区は南側が最も高く、7号竪穴建物跡がある付近から北西に向かって傾斜しており、黒灰色粘質土の包含層が全体に20cm程度堆積していた。土器が多量に包含されており、弥生土器片が最も多かったが、時期は弥生時代中期～中世までが混在している。検出時として取り上げている遺物の大半は剥ぎ切れていなかった包含層の遺物である。

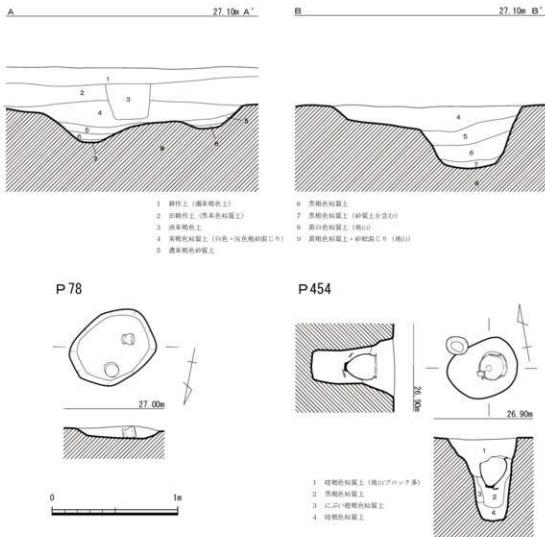
(2) 古墳時代の遺構

①竪穴建物跡

9号竪穴建物跡 (第11図)

I区中央部北側で検出した。北側と西側に大きな攪乱が入っており、南東角のみ残存する。床面ま

1号溝



第10図 1号溝土層・ピット実測図 (1/30)

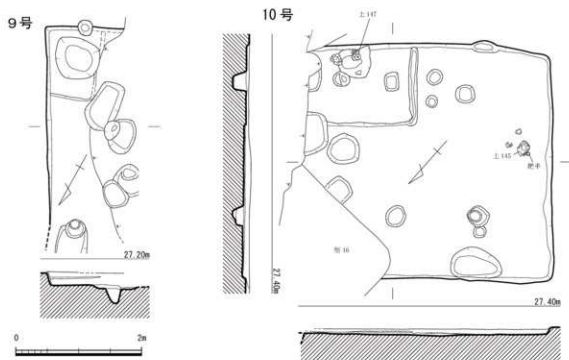
での深さは12cmである。南東隅に幅70cm×長さ105cmのベッド状遺構を設ける。出土遺物から弥生時代終末~古墳時代初頭と考えられる。

10号竪穴建物跡 (図版5-(2)、第11図)

I区北東部で検出した。南側を16号竪穴建物跡に切れ、東側1/3を現代の攪乱により失う。長軸4.0m以上、短軸3.24mを測る。南側中央に幅125cm×長さ160cmのベッド状遺構を設ける。ベッド状遺構の西側には幅15cmの小溝を掘る。4本柱建物跡と思われるが、東側の2本は確認できなかった。ベッド状遺構の地山直上からは、土師器の甕と小型丸底壺、高坏の坏部がまとめて出土している。出土遺物から弥生時代終末~古墳時代初頭と思われる。

11号竪穴建物跡 (図版4-(1)、第12図)

I区の北西部で建物跡の南側約1/2を検出した。3号竪穴建物跡を切る。床面までの深さは10cm



第11図 9・10号竪穴建物跡実測図(1/60)

である。建物跡の形状は方形で幅4.25m、残存長2.85mを測る。建物跡の東端に幅35cmの地山削り出しのベッド状遺構を設ける。床面に貼り床は確認できなかった。支柱穴は4本と考えられ、東西方向に並ぶ2本を検出した。南辺と西辺の壁際に細い溝が掘られる。溝は一定の深さではなく、短い窪みが連続して溝状をなす。出土遺物から古墳時代初頭のものと考えられる。

12号竪穴建物跡(図版4-(2)、第12図)

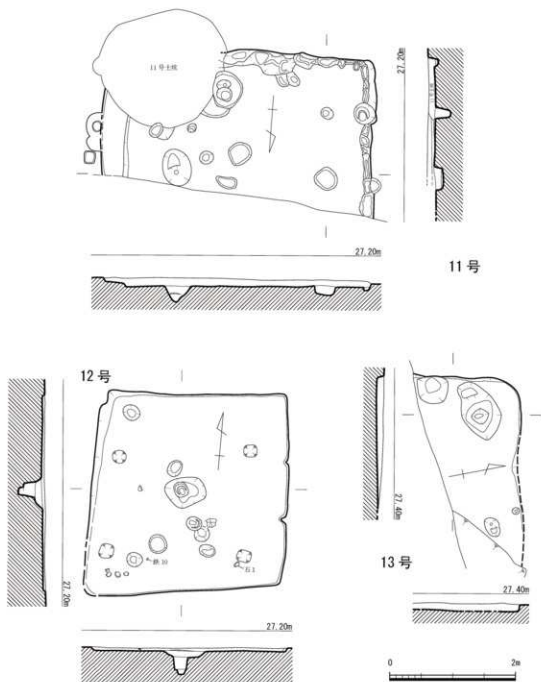
I区の南西隅で検出した。床面までの深さは7cmである。平面形は南西隅が突出する歪な方形で検出規模は3.1m×3.1mを測る。床面に貼り床は確認できなかった。東壁は中央部が2か所張り出す。カマド、もしくは建物の出入口の可能性を考えたが、土層でとらえることはできなかった。中央に直径65cmの柱穴一つ設ける。出土遺物から古墳時代のものと考えられる。

13号竪穴建物跡(第12図)

I区の調査区南西部で北西部のコーナー一部分を検出した。攪乱により大半が削られており、残りが最も良い西側でも床面までの深さは12cmだった。建物の形状は、他の竪穴建物跡から方形になると思われる。貼り床はなく、支柱穴も検出した範囲内で確認することが出来なかった。出土遺物から古墳時代以降になると思われる。土鈴が1点出土している。

14号竪穴建物跡(第5図)

I区の中央部南側で検出した。南東の隅が残存しているが、はっきりとした切合いを現地ではとることが出来なかった。床面までの深さは最も残りが良い東側で13cmである。貼り床は確認していない。2号竪穴建物跡に切られているように見えるが出土遺物の前後関係で矛盾が生じるため、切合

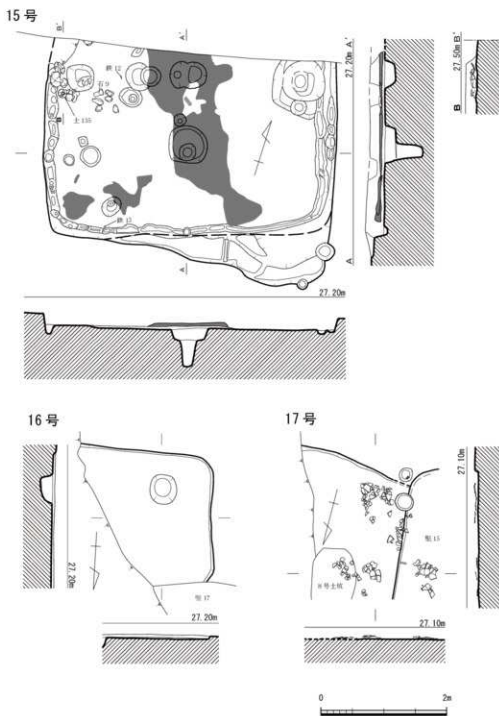


第12図 11・12・13号竪穴建物跡実測図 (1/60)

いを掘り間違えた可能性がある。出土遺物から古墳時代初頭になる可能性が高い。

15号竪穴建物跡 (図版4-(3)・5-(1)、第13図)

I区の北東部で検出した。調査区北壁に向かって続いており、全体の約1/2を確認した。検出規模は東西4.7m、南北3.3mである。3軒建物跡が重なっており床面の検出状況から15号竪穴建物跡が17号竪穴建物跡と5号竪穴建物跡を切る。床面までの深さは30cmである。主柱穴は2本と思われるが南側の1本しか検出できていない。床面の東西と南隅に側溝を巡らせる。床面から5cm浮いた状態で中央と南西隅に焼土と炭がまとまって堆積している。西側の床面からは、土師器の小型丸底壺や



第13図 15・16・17号竪穴建物跡実測図 (1/60)

二重口縁蓋、小型器台、砥石などがまとまって出土した。出土遺物から、古墳時代前期になると考えられる。

16号竪穴建物跡（図版5-(2)、第13図）

I区北東部で検出した。南側は17号竪穴建物跡に切られ、東側は現代の攪乱により失われている。南西角のみ残存する。遺物は小片のため図示しえない。

17号竪穴建物跡（第13図）

I区北東隅で検出した。15号竪穴建物跡に切られる。床面までの深さは24cmである。切り合いが多くははっきりとした遺構プランを検出できなかった。覆土上層には多量の土器が含まれた。支柱穴は検出できなかった。出土遺物から古墳時代初頭と考えられる。

②土坑

8号土坑（図版6-（3）、第14図）

I区の北東部で検出した。東側1/2を現代の攪乱に切られている。検出規模100cm×70cm、深さ22cmを測る長方形の土坑である。調査時は、土坑という認識だったが位置関係から17号竪穴建物跡の支柱穴になる可能性がある。覆土からは、弥生土器の小片が出土したが時期の特定はできなかった。

9号土坑（第14図）

I区中央北寄りで検出した。不整形な土坑で北側を2号溝に切られる。検出規模175cm×570cm、深さ15cmを測る、溝のような歪な形状の土坑である。検出当初、南側の壁面が弧を描いているように見えたため円形竪穴建物跡になる可能性も考えたが、東側が後世の墓やピットで攪乱されており、南側の壁を続けて検出できなかったため、土坑としている。覆土は暗褐色粘質土で、橙褐色の土塊を含む。覆土からは、古墳時代を主体とする土器が出土している。

21号土坑

I区の西北部で検出した。直径87cm、深さ5cmの浅い楕円状の土坑である。遺物は出土しなかったが17号竪穴建物跡を切り、15号竪穴建物跡に切られるため、古墳時代初頭から前期の遺構、もしくは17号竪穴建物跡の埋め土の差を遺構と見誤った可能性があるため、図示していない。

（3） 歴史時代の遺構

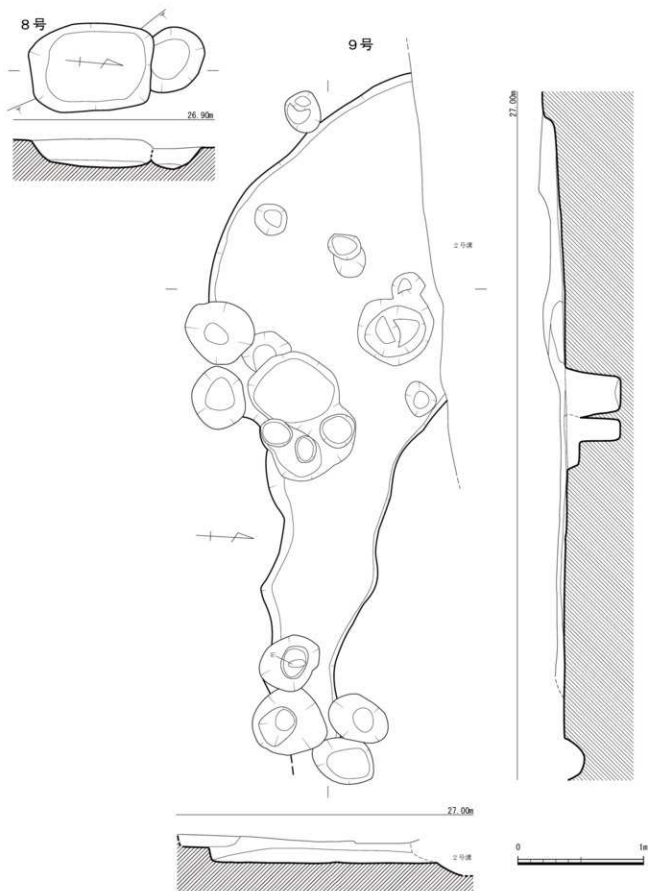
①土坑

10号土坑（図版7-（1）、第15図）

I区南西部から検出した。19号土坑と8号竪穴建物跡を切る。検出規模112cm×128cm、深さ27cmを測る楕円形の土坑である。土坑の覆土は、橙褐色の土塊を多く含む黒褐色土で明らかに埋め土である。地山のほぼ直上から、須恵器の坏身と坏蓋、大甕の胴部が出土している。奈良時代のものと思われる。

11号土坑（図版7-（2）・（3）、第15図）

I区北西部で検出した。11号竪穴建物跡を切る。検出規模190cm×200cm、深さ76cmを測る円形の土坑である。すり鉢状に掘削され床面は平らである。覆土からは、投げ込んだような状態で陶磁器、土師器の釜、播鉢などが出土した。土師器はいずれも内外面に多量の煤が付着する。出土土器から13世紀以降に埋没したと考えられる。



第14图 8·9号土坑实测图 (1/30)

12号土坑 (図版8-(1)、第15図)

I区の西部で検出した。8号整穴建物跡を切る。検出規模は直径102cm、深さ61cmを測る円形の土坑である。11号土坑に覆土、形態とも似る。上端に向かってややばち型に開く円筒形で、床面はほぼ平らである。覆土からは、土師皿、瓦器碗の底部、同安窯系青磁、玉縁の白磁が出土している。出土遺物から12世紀中頃から後半のものと思われる。

14号土坑 (図版8-(2)、第15図)

I区の東部で検出した。検出規模194cm×170cm、深さ34cmを測る円形の土坑である。断面はすり鉢状に掘削される。覆土は灰褐色粘質土1層だった。覆土からは、高台付きの土師碗と青磁の小片が出土している。出土遺物から12世紀前後のものと思われる。

15号土坑 (図版8-(3)、第16図)

I区の東部で検出した。検出規模150cm×110cmを測る。中央に105cm×40cm、深さ14cmの長方形の掘り方が別にあった。覆土は周囲が橙褐色粘質土の土塊を多量に含む暗褐色粘質土、中央が黒褐色～暗褐色粘質土である。土層では確認できなかったが、掘方から木棺墓を想定している。覆土からは、糸切りの土師皿、同安窯系青磁などが出土した。出土遺物から12世紀後半のものと思われる。

16号土坑 (第16図)

I区の中央部で検出した。17号土坑の北に位置する。平面形は長方形で、P497・P498に切られる。検出規模85cm×44cm、深さ6cmを測る。付近から鉄くぎが1点出土したことから木棺墓の可能性はある。東播系の鉢口縁部が出土した。12～13世紀のものと思われる。

17号土坑 (第16図)

I区の中央部で検出した。平面形は長方形で、西側が後世の攪乱に切られる。検出規模156cm×72cm、深さ17cmを測る。平面プランから土壇墓もしくは木棺墓の可能性もあるが、断定できなかった。出土土器は土器片のみで図示し得るものはないが土師皿の破片が出土していた。

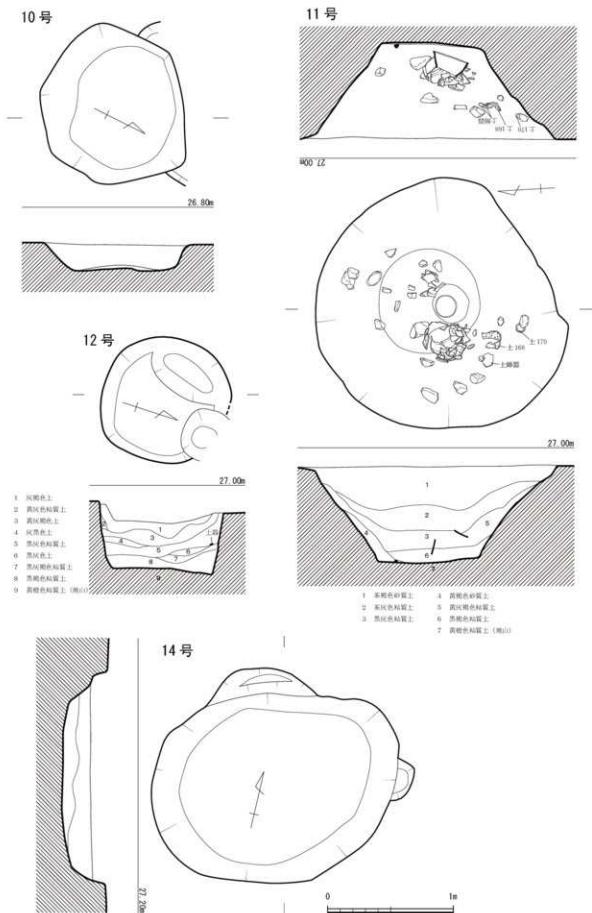
18号土坑 (第16図)

I区の中央部で検出した。P503・P504に切られる。検出規模103cm×124cm、深さ19cmを測る歪な円形の土坑である。断面は掘鉢状である。覆土は灰褐色粘質土が多く混じる暗褐色粘質土で、覆土からは玉縁の白磁、土師皿小片等が出土している。周辺の遺構との関係から12世紀代のものと思われる。

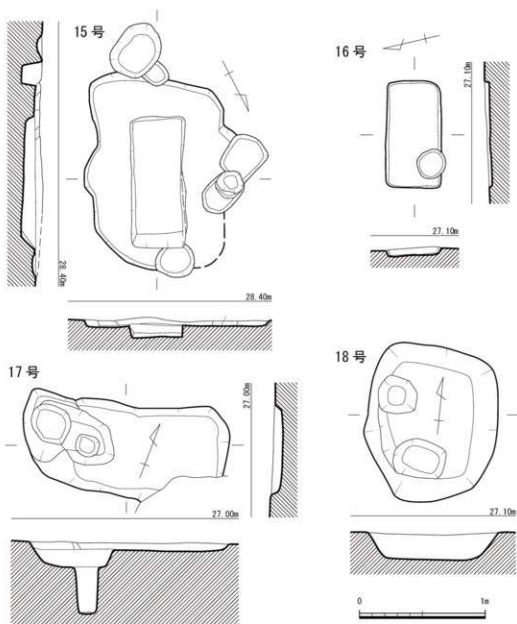
②溝

2号溝 (第17図)

I区中央部北端で検出した。溝としているが検出規模7.8m×1.8m、深さ42cmの東西に長い溝状の遺構である。遺構の断面は逆台形を呈す。覆土は灰褐色砂質土の下に厚く茶褐色粘質土が堆積し、その下に薄く暗褐色粘質土が入る。覆土からは、中世の貿易陶磁、土師器、石鍋片、砥石などが出土している。12世紀前後のものと思われる。

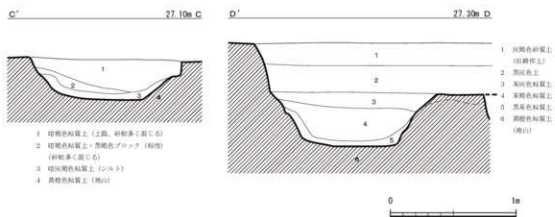


第 15 图 10·11·12·14号土坑实测图 (1/30)



第16図 15・16・17・18号土坑実測図 (1/30)

2号溝



第17図 2号溝土層実測図 (1/30)

3 遺物

(1) 土器 (図版 11～17、第 18～38 図、表 1)

①弥生土器

1号竪穴建物跡出土土器 (1～6)

1は無頸壺の口縁部。2・3は甕の口縁部。2は断面形が「く」字状に近い資料で、3は断面形が逆「L」字状の口縁部。いずれも短く外に突出し、胴部はほとんど張り出さない。4・5は甕または壺の底部。4はわずかに上げ底状である。5は平底と思われるが残存状況が悪く判別できない。6は高坏のくびれ部。外面に工具による強いナデが見られる。

2号竪穴建物跡出土土器 (7～15)

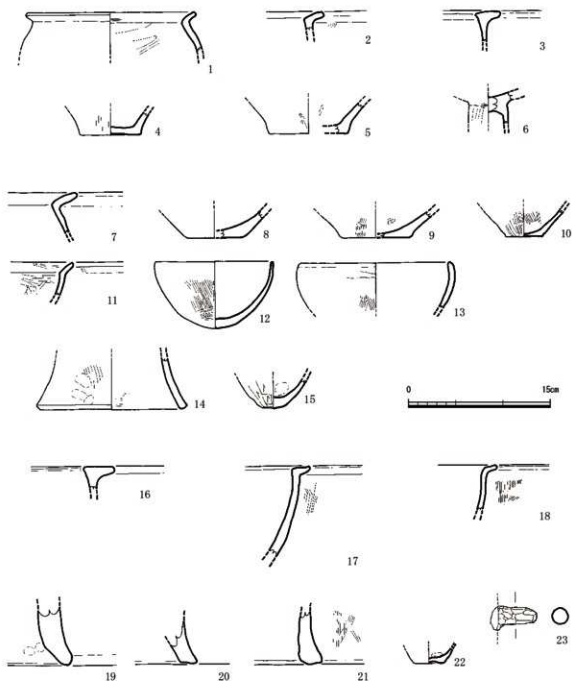
7は甕の口縁部断面形が「く」字状を呈す。8～10は甕または壺の底部。いずれも平底。10は小型である。11～13は鉢。11は口縁部が屈曲し外反する。12は半球形に近い。13は全体的なプロポーシオンは12と似るが、体部がわずかに内湾して口縁部に至る。14は器台の裾部。器壁は薄く外反する。外面にハケ目調整を施す。15は手捏土器。口縁部を欠くため断定できないが、鉢もしくは甕を模す。

3号竪穴建物跡出土土器 (16～23)

16は甕の口縁部。内側がわずかに突出する。17・18は鉢の口縁部。口縁部が屈曲し外反する。19～21は器台の裾部。22は手捏土器。底部が上げ底状。23は甕の把手か。断面形が円形で直線的に伸びる。

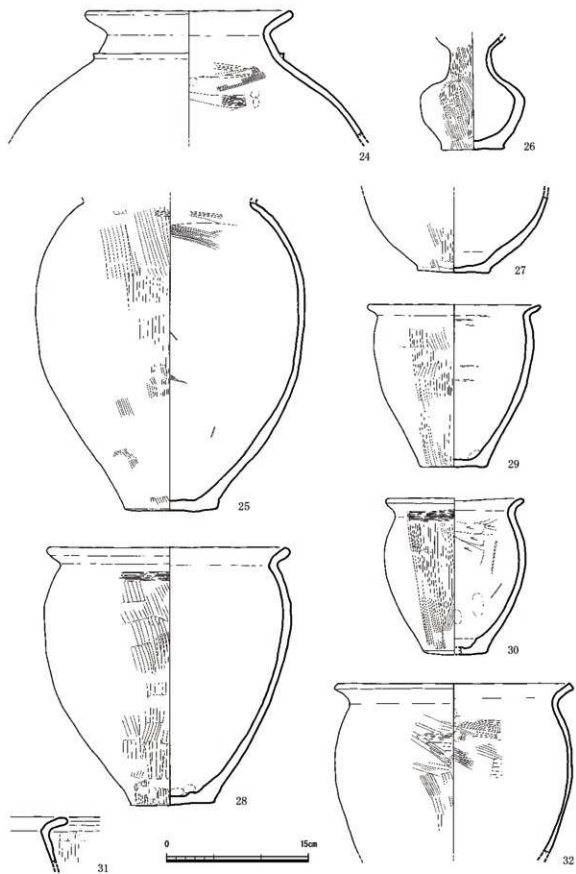
4号竪穴建物跡出土土器 (24～58)

24～27は壺。28～38は甕。40は甕。41～50は鉢。51～53は器台。54～58は手捏土器。24は口縁部が「く」字状で、頸部下に断面三角形の突帯を貼り付ける。25は口縁部を欠く。底部は中央がわずかに上げ底状となる。26は口縁部を欠く小型の壺。底部は平底で、肩部から伸びる頸部はわずかに内傾する。27は壺の底部。28はほぼ完形品の甕。29・30は小型の甕。29は胴部が鉢状に開き、28と比べ頸部の屈曲が緩い。28・30の外面には一部ススが附着する。31～35・39は甕の口縁部。35以外は断面形が「く」字状。31・32は頸部の屈曲が緩い。32・34は口唇部を平らに仕上げる。35はおそらく丹塗土器。断面形が逆「L」字状で頸部下に断面台形の上帯が1条廻る。口縁部の上面には放射状の暗文、口唇部に刻み目を施す。36～38は甕の底部。36・37の外面には一部ススが附着する。38は小型である。40は甕の底部。平底状で底部に径2cmの穿孔を1つ施す。鉢のうち43は完形品。41は底部を欠き、胴部から口縁部は直線的に立ち上がる。42・43は口縁部はどちらも外に強く屈曲するが、42の胴部が外傾するのに対し、43は内湾する。44は体部が直立する。45・46は内湾し、いずれも体部上端をわずかに外反し口縁部を作り出す。47・50が体部からわずかに内湾しながら口縁部に至るのに対し、48・49は底部から直線的に外傾しながら口縁部に至る。51～53は完形品

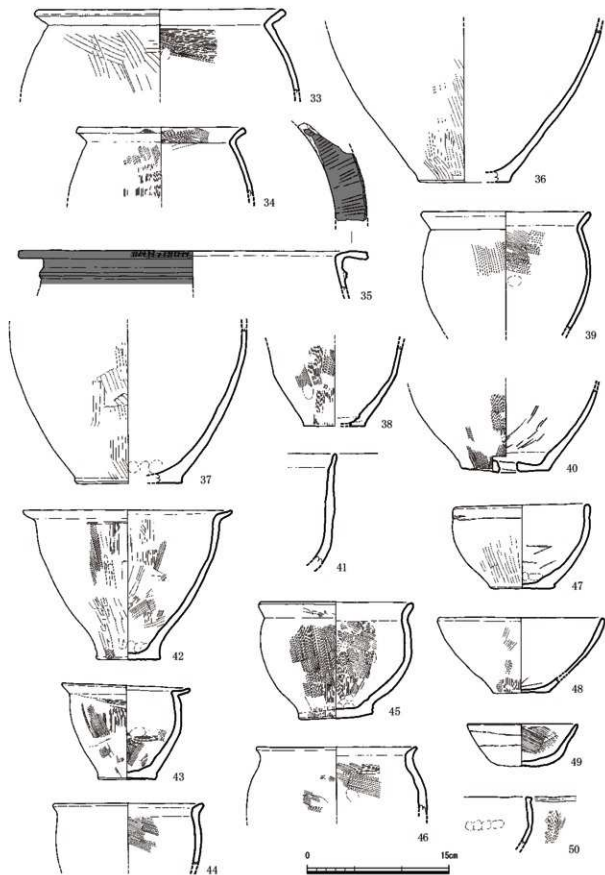


第18図 1・2・3号竪穴建物跡出土土器実測図(1/4)

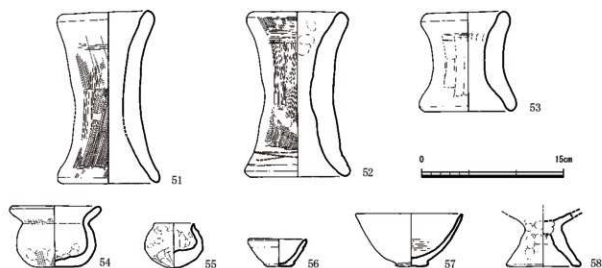
の器台。51・52の器壁は厚く、外面をハケ目、内面を指ナデ・オサエで仕上げる。53は、51・52と径、厚みともほとんど変わらないが器高が低い。外面はハケ目で仕上げた後一部をなでる。54～57は手握土器で鉢を模す。54は、底部が平底で、頸部は「く」字状に屈曲する。55は凸レンズ状の底部から伸びる胴部を強く内湾させ、口縁部をわずかに外部に屈曲させる。56は平底の底部から胴部が直線的に外傾する。57は56と全体的な形は似るが底部が厚く、体部がわずかに内湾する。58は高坏を模す。



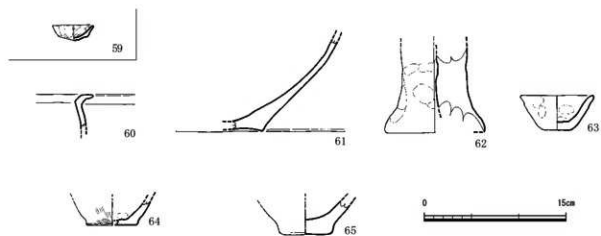
第19图 4号竖穴建物跡出土土器実測图① (1/4)



第 20 图 4 号竖穴建物跡出土土器実測图② (1/4)



第21図 4号竪穴建物跡出土土器実測図③ (1/4)



第22図 8・10号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/4)

10号竪穴建物跡出土土器 (59)

59は鉢を模した手捏土器。底部は丸く仕上げる。

8号竪穴建物跡出土土器 (60～65)

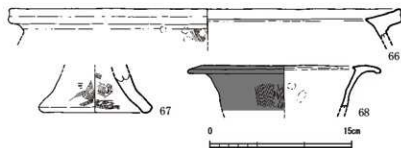
60は甕の口縁部。断面形は「く」字状になる。61は甕の底部。上底。62は器台。非常に器壁が厚い。指ナデ・オサエで仕上げる。器台というよりも支脚とした方が良くもしいない。63は鉢を模した手捏土器。平底の底部から体部は直線的に外傾する。64は底部資料。平底。65は甕又は甕の底部。厚い平底。

1号土坑出土土器 (66)

66は大型の甕の口縁部。口縁部は逆「L」字状で内傾する。口唇部に沈線状の窪み。

7号土坑出土土器 (67・68)

67は器台の裾部。68は傾きと口径から壺と判断した。断面が鋤先状を呈するが、内側の突出度は



第23図 1・7号土坑出土土器実測図(1/4)

弱く、上面は外傾する。外面に丹塗りを施す。

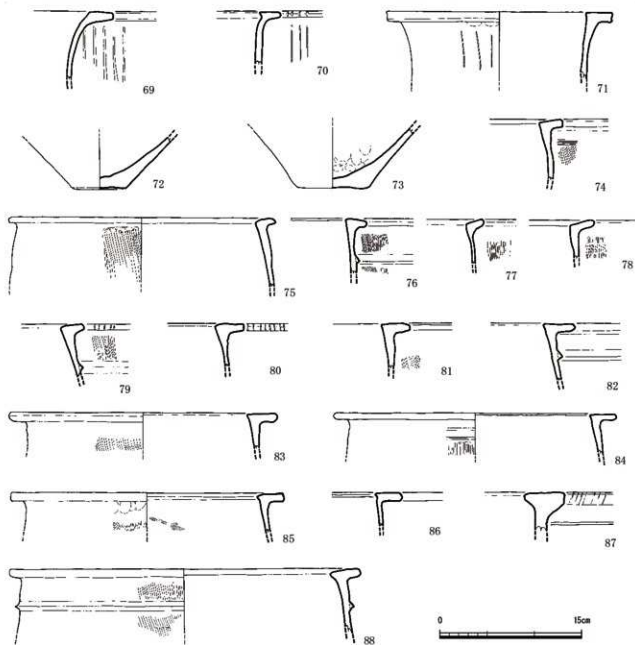
1号溝出土土器(69～102)

69～73は壺。69～71は口縁部である。69は頸部がわずかに外傾するが、70・71はほぼ直立する。口縁部は69・71が逆「L」字状、70が鋤先状となる。70は内側への突出は弱い。69～71は、いずれも外面に暗文を施す。72・73は体部の張り出し方から壺の底部と判断した。いずれも上底。74～88は甕の口縁部。74～84は逆「L」字状、85～88は鋤先状である。75～79は口縁部の外側への張り出しが小さい。79・80・87は口唇部に刻み目を施す。76・79・82・88は頸部下に断面が三角形となる突帯を一条巡らせる。89～98は、底部資料。いずれも厚みのある上底で外面に縦方向のハケ目を施す。95のみ上底の断面が薄い。99・100は高坏の脚部である。99は外面に工具によるナデがみられ、100は内面に絞りの痕がある。101は器台。102は鉢の口縁部。直線的な体部の上端を外側にわずかに屈曲させて口縁部を作る。

ビット出土土器(103～120)

ビットは数が多いため、まとめて報告を行う。出土地点は表1を参照されたい。

103～105は壺の口縁部である。103は複合口縁壺で口縁部反転部が丸みを帯び内湾する。104は短頸壺。端部が短く立ち上がり、「く」字状を呈す。105は甕に近い形状で、口縁部は短く外反する。106～108は甕の口縁部と思われる。106・108の断面形は逆「L」字状に近いが、ごくわずかに内側に突出が見られる。外面への突出も小さい。107は断面形が逆「L」字状。器壁は薄く、口縁部はわずかに外反する。109～115は底部資料。109・110・115は上底状で、111は平底状である。109は、底部から体部の立ち上がりを見ると、小型の甕の底部となる可能性が高い。113は、平底か上底と思われるが、中央部が残存していないため不明。111・112・114と比べ底部に厚みがある。114は平底と思われるが、破片のため底部が凸レンズ状になる可能性が残る。116は鉢の口縁部。体部は緩やかに内湾し、口縁端部を外側へ屈曲させる。117は台付鉢。口縁部はわずかに内湾する。手捏で全体を成形した後、刷毛で調整し、口縁端部と脚部をなでる。鉢部と脚部は指オサエで整える。118は瓶の把手。断面は楕円形で、上面はわずかに内傾する。119は器台の裾部。裾部はわずかに内湾する。器壁の厚みは均一で、内外面ともハケ目を施す。120はほぼ完形の甕。口縁部は「く」字状で、底部は薄い平底である。



第24図 1号溝出土土器実測図①(1/4)

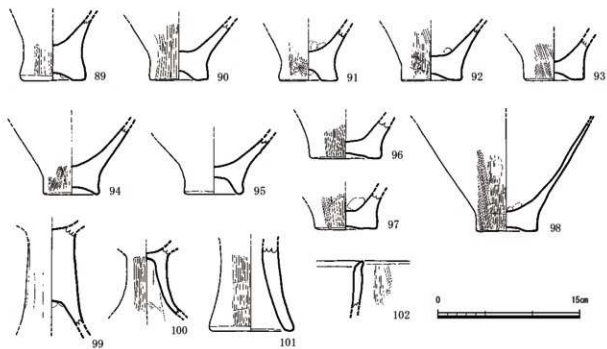
包含層出土土器 (121～126)

121・122は甕の口縁部。121は胴部より広く口縁部が開く。屈曲は弱いが「く」字状である。122は口縁部を短く「く」字状に外反させる。123は短頸壺の口縁部。124は底部資料。平底。125は高坏の脚部。内外面とも摩滅しており調整は不明。126は手握土器。高坏を模す。

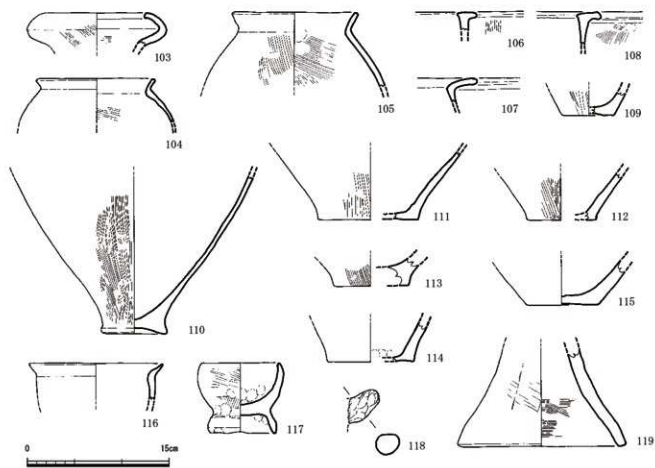
②土師器・須恵器

11号竪穴建物跡出土土器 (127)

127は甕の口縁部。口縁部は「く」字状で外面に平行タキを施す。



第25図 1号溝出土土器実測図②(1/4)



第26図 ビット出土土器実測図(1/4)

12号竪穴建物跡出土土器 (128)

128は鉢。底部が欠損しているがおそらく半円形となる。器壁は薄く、内面に強い工具によるナデ、外面にタタキ痕が残る。

14号竪穴建物跡出土土器 (129)

129は底部資料。丸底で、外面は摩滅しているためはっきりしないが、内面にはハケ目が残る。

15号竪穴建物跡出土土器 (130～136)

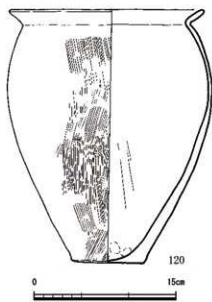
130は壺。頸部から体部の下半が残存する。体部の上半分は平行タタキを施した後、縦方向のハケ目を施す。内面はケズリを入れるが一部に粘土紐の単位が残る。131は布留系の甕の口縁部。口縁部は「く」字状になり、内面を頸部から少し隙間をあけて削る。132は底部資料。底部は凸レンズ状をなす。133・134は鉢。133は浅い皿状の体部に屈曲して大きく開く口縁を持つ。底部は丸底で、外面は良く磨かれている。134は体部がわずかに内湾する。135は小型器台。調整は器壁が摩滅しているため確認できない。136は脚付鉢または脚付皿である。脚部の径は小さく、端部が外反する。

9号竪穴建物跡出土土器 (137～139)

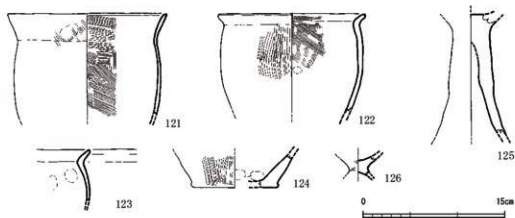
137は丸底の壺。口縁部と底部を欠損する。138は甕の口縁部。断面形は「く」字状をなし、頸部内面からケズリを施す。139は小型丸底壺。器壁は薄く、口縁部は体部より開く。外面は底部を強く磨く。

17号竪穴建物跡出土土器 (140～144)

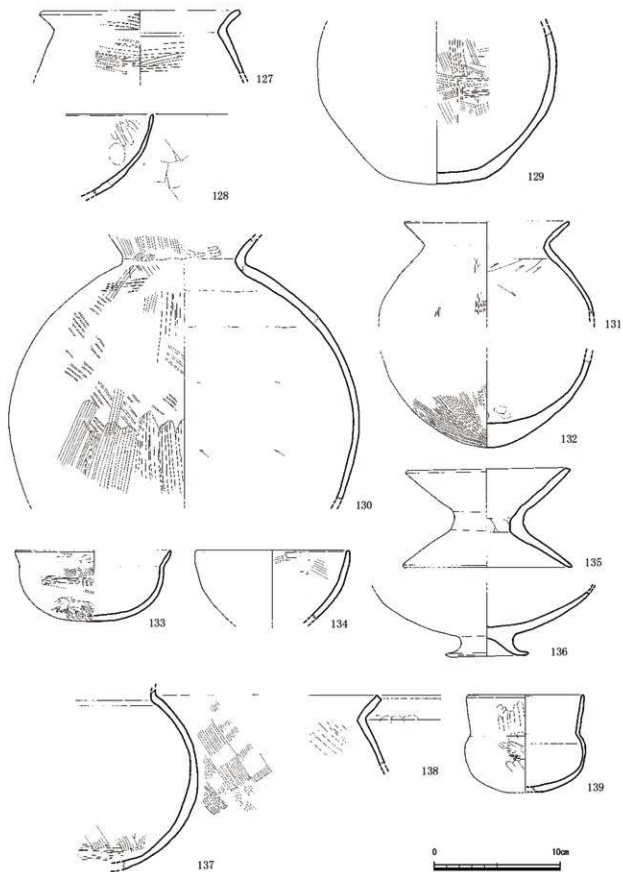
140は二重口縁壺。141は短頸壺。口縁は短く外反する。142は甕の口縁部。胴部外面にタタキが残る。143は甕。頸部の屈曲は小さく、長胴である。底部は外面が剥落しているが、尖底から丸底に近いと思われる。外面にタタキ後縦方向のハケ目を施す。144は大型の鉢。全体的に歪んでいるため上から



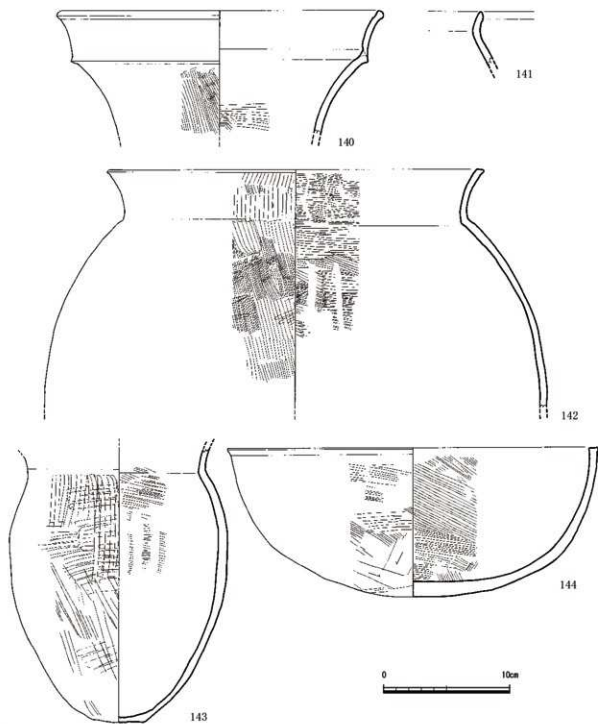
第27図 P454出土土器実測図 (1/4)



第28図 包含層出土土器実測図 (1/4)



第29图 9·11·12·14·15号竖穴建物跡出土土器実測图 (1/3)

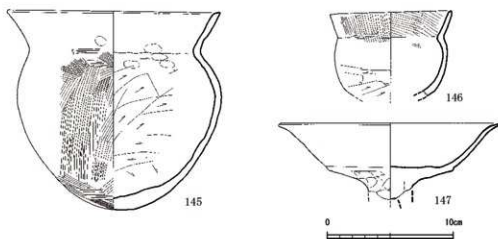


第30図 17号竪穴建物跡出土土器実測図(1/3)

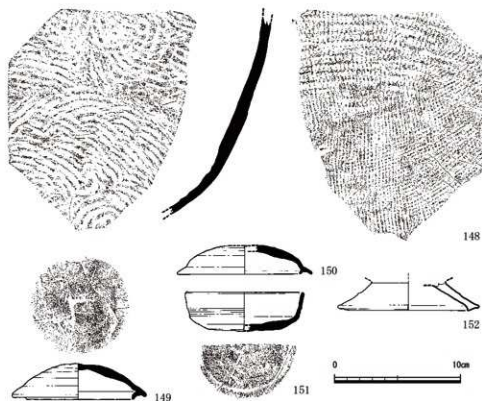
見ると楕円形になっている。口縁部は端部をわずかに外につまみ出してつくる。

10号竪穴建物跡出土土器 (145～147)

145は小型の甕。口縁部は「く」字状で、底部はやや尖った丸底である。口縁部は胴部より大きく開く。
146は小型丸底壺の口縁部～胴部。体部下半から底部に向かってケズリで器面を整える。147は高坏の坏部。坏部下半は直線的で先端をつまみ出ししながら外反させる。脚部は欠損する。



第31図 10号竪穴建物跡出土土器実測図(1/3)



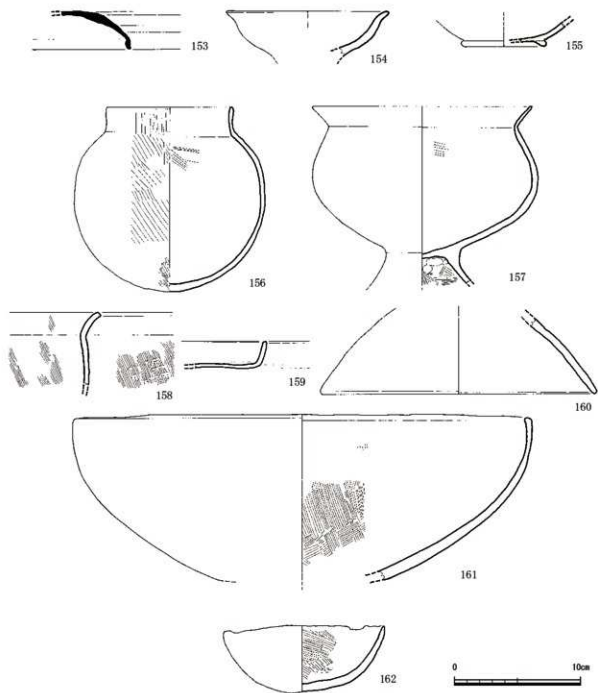
第32図 10号土坑出土土器実測図(1/3)

10号土坑出土土器 (148～152)

148は須恵器の甕。体部のみが残存する。内面に青海波状文、外面に格子状と並行状のタタキを施す。149・150は須恵器の坏蓋。150は口縁部の立ち上がり短い。151は須恵器の坏身部。152は脚部。直線的に外傾し、端部は壇上に摘み上げる。

19号土坑出土土器 (153・154)

153は須恵器の坏蓋。154は土師器の高坏坏部。坏部は浅く丸い。口縁部を外反させる。



第33図 9・14・19号土坑、P114出土土器実測図(1/3)

9号土坑出土土器(156～161)

156は壺。丸底で口縁部は直立する。157は台付鉢。口縁部は「く」字状に屈曲し、底部は丸底状。裾に向かって外反する脚部が貼り付く。158は甕の口縁部。159は皿。160は脚部。高環、もしくは台付甕の脚部と思われる。緩やかに裾に向かって内湾する。161は大型の鉢である。口縁の平面形は楕円で、断面は半円形をしている。内面にはハケ目が見られるが、外面は摩滅しており調整が確認できない。

P 114 出土土器 (162)

162は土師器の坏。粗雑なつくりで外面はナデ、内面には粗いハケ目が施される。

③陶磁器等

14号土坑出土土器 (155)

155は瓦器碗の底部。ハの字に開き高台が付く。

11号土坑出土土器 (163～170)

163は土師器の小皿。底部は糸切り。164～166は、土師器の釜もしくは鍋。164は口縁部のみ残存しており、直立する口縁部の外面には渦巻き状の文様が刻まれたスタンプを押し当てる。165は底部を欠く。内湾する体部と直立する口縁部を持つ。体部上半部には耳を2か所設け、体部中央に断面台形の突帯を一条貼り付ける。頸部直下には4か所に同じ方形の型で文様を付ける。166は底部から体部が外傾しながら直線的に伸びる。口縁部は玉縁状に肥厚する。体部下半に弱い突帯状の高まりを一条巡らせる。165・166は体部下半に行くに従い多量のススが附着する。167は挿鉢である。器壁を押し出して注ぎ口を2か所作り、内面に約5cm間隔で強い8本のスリ目を付ける。口縁端部の内面側は僅かにつまみ出しが、注ぎ口の片側だけつまみ出しが弱い。168～170は白磁の碗である。168は口縁部が直線的に伸び、端部を丸く仕上げる。高台を削り出して作る。内面と高台の置付けには胎留の砂が6か所ずつ残る。軸は非常に薄く高台まで達しない。169は口縁部のみ残存する。端部は外反する。170は高台部分のみが残存する。高台は内部の削り出しが浅く、外面端部が若干浮く。

12号土坑出土土器 (171～176)

171は土師器の坏。摩滅しているが、底部は糸切りと思われる。口縁端部に向かって器壁が薄くなる。172は土師器の碗底部。断面台形状の高台を貼りつける。174は瓦器碗の底部。173・175は同安窯系青磁碗の口縁部。いずれも体部上位は若干内湾する。173は内面上位に沈線を入れ、沈線より下位に櫛状の施文具による点描文を描く。外面に縦の櫛目文を施す。175は173と比べ口縁端部に行くほど厚みが増す。文様は、内面に点描文がない以外は同じである。176は白磁碗の口縁部。口縁部の断面形は、三角形に近い厚みのある玉縁状である。

15号土坑出土土器 (177～179)

177は土師器の小皿。底部に板状圧痕が残る。摩滅しており糸切りかどうかは不明。178は白磁の高台と思われる。軸は薄く、高台までかからない。179は同安窯系青磁碗。内面に沈線と櫛による点描文、外面に櫛目文を施す。

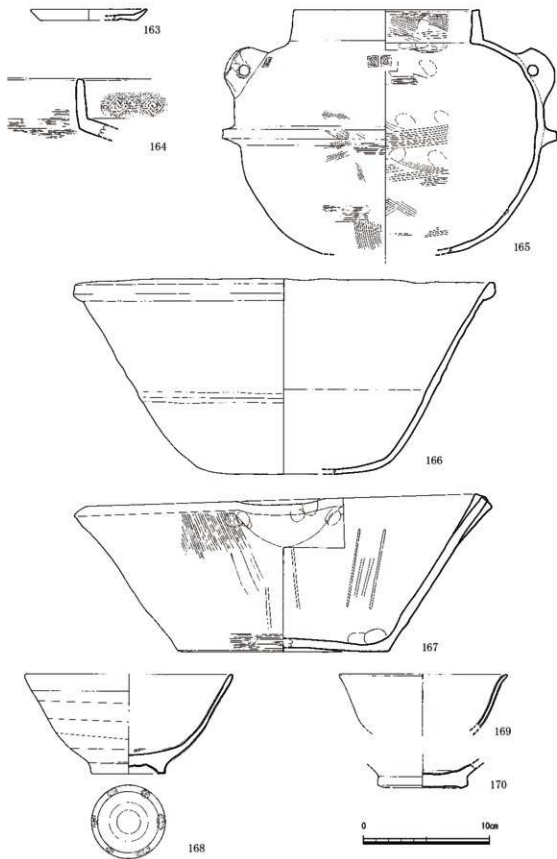
16号土坑出土土器 (180)

180は東播系の鉢と思われる。

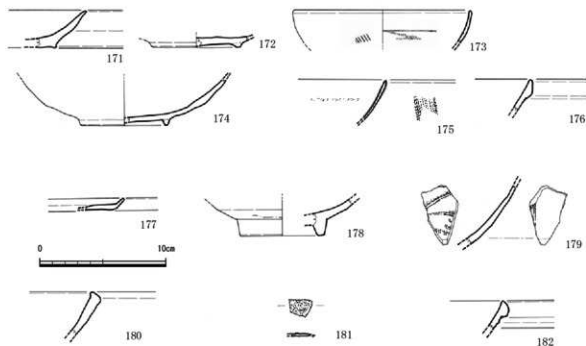
17号土坑出土土器 (181)

181は青白磁の合子蓋。菊花文が押し出される。

18号土坑出土土器 (182)



第34图 11号土坑出土土器实测图(1/3)



第35図 12・15・16・17・18号土坑出土土器実測図(1/3)

182は白磁碗Ⅳ類の口縁部。玉縁状をなす。

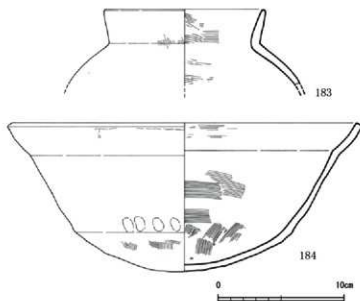
2号溝出土土器(183・184)

いずれも土師器。183は広口壺。口縁部は、外に傾きながら直線的に立ち上がる。184は鍋。丸底で、体部と口縁部の間には段を付け、口縁部をわずかに内湾させる。体部下半に指オサエを一周させることで段を設ける。外面は多量の煤が付着するためほとんど確認できないが、刷毛と指オサエによる調整を加える。

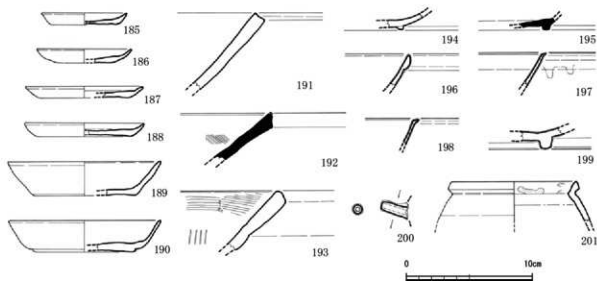
ピット出土土器(185～201)

ピットは数が多いためまとめて報告を行う。出土地点は表1を参照されたい。

185～188は土師器の小皿。
185～188は小皿。口径は6.8～9.5cm、器高は約1cmを測る。底部と体部の境を屈曲させ、体部はヨコナデ、底部内面は不定方向ナデ、底部外面は糸切りで仕上げる。185・188には板状圧痕も残る。189・190は土師器の坏。底部と体部の境を屈曲させ、直線的に伸びた体部を外傾させ



第36図 2号溝出土土器実測図(1/3)

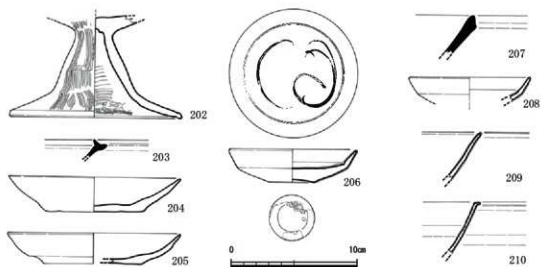


第 37 図 ビット出土土器実測図 (1/3)

る。端部は丸く仕上げる。底部外面は糸切り。191・193は瓦質の鉢。191は端部を面取りする。193は内面に縦方向のスリ目が部分的に強くつけられており挿鉢と考えられる。192は須恵質の鉢。東播系と思われる。先端は嚙状につまみ出す。194は瓦質の椀。195は須恵器部部の高台部分。196～198は白磁の椀で、口縁部分のみ残存する。196は口縁端部を玉縁状にする。197・198の体部は斜め上方に直線的に開き、口縁部は見込みに段が付く。199は青磁の高台部分。高台は施釉後、畳付けの釉を削り取るが非常に雑な仕上げである。200は青白磁の小水注の注口部分。201は中国陶器。耳壺の口縁部か。

包含層出土土器 (202～210)

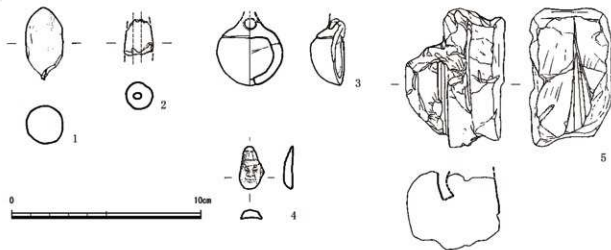
202は土師器の高坏の脚部。混ざりこみと思われる。本来は古墳時代で報告すべきところだったが、誤ってこの挿図にいられてしまった。203は須恵器の坏身。204・205は土師器の坏。底部には糸切りと板状圧痕が残る。206は青磁皿の完形品。19号土坑付近を検出した際に確認したが遺構に伴わなかったため、包含層として取り上げている。体部中位で屈曲し、口縁部は直に引き出す。先端部が薄くなるが丸味を持つことから龍泉窯系青磁皿と思われる。底部外面は焼成前に釉を掻き取り、内面見込みに篋で片彫の文様を施す。片彫の文様は通常花文だが、206は花の形状をなしていない。208も同様の青磁皿と思われるが、見込み部分が欠損するため判別できない。207は須恵質の鉢である。209・210は白磁の口縁部である。209の体部は直線的に伸び、口縁部をわずかに外反させる。210も体部が直線的なところは似るが、口縁端部を嚙状につまみ出す。



第38図 包含層出土土器実測図 (1/3)

(2) 土製品 (図版 18-(1)、第39図、表2)

1は1号溝、2は検出時に出土した。1は土製の投弾である。図の下部を一部欠くがほぼ完成形。断面は円形。2は土錘。断面は円形で中央に穿孔を施す。3は13号竪穴建物跡から出土した土鈴である。色は灰白色～灰色をしており、つまみ出した部分に紐を通すための穿孔を施し、体部上面に沈線一条入れる。4は検出時に確認した。泥面子で、表は立体的な烏帽子を被った男性の顔、裏面は平らになでつけてある。5は不明土製品。17号竪穴建物跡を切るP388から出土した。管状の圧痕も残るが全体の形が想像できない。炉壁、もしくは焼成された粘土塊の可能性はある。



第39図 土製品実測図 (1/2)

表1 石尺遺跡7次調査出土土器観察表

()は数量

番号	呼称 図版	種別	出土位置	法量 (m) ①口縁位置 ②底径位置 ③脚部位置	保存 状態	調整及び特徴	備考
1	第18図	壺	1号型穴建物跡	① (18.0)	口縁部1/4	調整は外面ナデ、内面ナデ。口縁部ココナデ見へず。 胎土は白砂粒を少量、雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
2	第18図	壺	1号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は口縁部ココナデ、外面ハケ目。 胎土は白砂粒をやや多く、石英・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
3	第18図	壺	1号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は口縁部ナデ・ココナデ。 胎土は石英・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
4	第18図	底部	1号型穴建物跡	③ (6.6)	底部1/3	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白砂粒を少量、雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
5	第18図	底部	1号型穴建物跡	③ (8.4)	底部1/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ・ココナデ・工具痕み。 胎土は白砂粒・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	黒腐あり
6	第18図	高杯	1号型穴建物跡	—	くびれ部1/3	調整は外面工具によるナデ、ハケ目、内面ナデ。 胎土は白砂粒をやや多く含む。雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
7	第18図	壺	2号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。口縁部ココナデ。 胎土は白砂粒を少量、雲母をやや多く含む。色粒子を少量含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
8	第18図	底部	2号型穴建物跡	③ (6.2)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
9	第18図	底部	2号型穴建物跡	③ (7.8)	底部1/6	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白色砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
10	第18図	底部	2号型穴建物跡	③3.9	底部定存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面工具によるナデ。 胎土は白砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
11	第18図	鉢	2号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面ハケ目後ナデ。口縁部ココナデ。 胎土は白砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
12	第18図 図版11	鉢	2号型穴建物跡	① (12.6) ②7.1 ③2.3	全体の3/4	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は白砂粒・黒色砂粒・雲母を少量、角閃石をわずかに含む。 焼成は良好。色調は外面褐色色～黒灰色、内面褐色色。	黒腐あり
13	第18図	鉢	2号型穴建物跡	① (16.2)	口縁部3/4	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。口縁部ココナデ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒を少量、雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
14	第18図	器台	2号型穴建物跡	③ (16.0)	瓶部1/8	調整は外面ヘラミガキ・指頭正直。内面ナデ・ハケ目。胎土は 白色砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
15	第18図	手取	2号型穴建物跡	③2.4	底部定存	調整は外面工具によるナデ、内面指頭正直・ナデ。 胎土は白砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	黒腐あり
16	第18図	壺	3号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は口縁部ココナデ・ナデ。 胎土は石英・長石・黒色粒子・雲母を少量、角閃石をわずかに 含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
17	第18図	鉢	3号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面工具によるナデ。 胎土は白色砂粒を多く、黒色砂粒を少量、雲母をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
18	第18図	鉢	3号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面・口縁部ともにココナデ。 胎土は白色砂粒・雲母、石英をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面赤褐色。	
19	第18図	器台	3号型穴建物跡	—	瓶部片	調整は外面ナデ、内面ナデ、指頭正直。 胎土は白色砂粒・白色砂粒・黒色砂粒・雲母を多く含む。焼成は 良好。色調は内外面ともに褐色色。	
20	第18図	器台	3号型穴建物跡	—	瓶部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成 は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
21	第18図	器台	3号型穴建物跡	—	瓶部片	調整は外面ハケ目、底部指頭正直・ナデ、内面瓶底のみ不調整。 胎土は石英・長石・赤色粒子・黒色粒子を少量、雲母をやや多く 含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
22	第18図	手取	3号型穴建物跡	③ (3.2)	底部1/2	調整は外面ナデ、内面指頭正直。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母をやや多く、褐色粒子を少量 含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	黒腐あり
23	第18図	把手	3号型穴建物跡	—	把手	調整は外面指頭正直・ナデ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒を少量、赤色粒子・雲母をわずかに 含む。焼成は良好。色調は外面赤褐色。	
24	第19図 図版11	壺	4号型穴建物跡	① (22.0)	口縁部1/9～ 突部部1/2	調整は外面ナデ、内面ハケ目後ナデ・指頭正直・輪襷痕み。口 縁部ココナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く、赤色粒子・雲母を わずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	
25	第19図 図版11	壺	4号型穴建物跡	③9.5	胴部上部1/2 ～胴部下部上 底部は1/2定存	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ハケ目後ナデ・工具痕・指頭正直。 胎土は白色砂粒を多く含むナデ、長石等の白色砂粒・黒色砂粒・雲母 を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色色。	黒腐あり スチ付着

番号	種別 図版	種別	出土位置	出典 (cm) ①口縁部 ②底面 ③胴部	保存 状態	調整及び特徴	備考
26	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	③6.7	ほぼ完成	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面直筒正皿・ナゲノナ。胎土は石英・長石等の砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色～黒灰色、内面褐色。	
27	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	③(7.4)	胴部1/2～ 底部ほぼ完成	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面直筒正皿・ナゲノナ。胎土は石英・長石等の砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は外面褐色～黒灰色、内面褐色。	黒底あり
28	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①25.7 ②27.3 ③(8.9)	ほぼ完成	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ナゲ、工具痕・指痕正皿、口縁部ハケ目後コソナゲ。 胎土は白色砂粒をわずかに、長石等の白色砂粒・黒色砂粒・赤色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面灰褐色。	黒底あり スス付着
29	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(18.4) ②17.15 ③(7.2)	口縁部～ 胴部1/3、 底部2/3	調整は外面ハケ目、内面工具痕・ハケ目後ナゲ・指痕正皿、口縁部コソナゲ。 胎土は長石等の砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	小型
30	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①14.6 ②16.5 ③(6.9)	口縁部完成～ 底部1/2	調整は外面ハケ目・ナゲ、内面ナゲによるナゲ・指痕正皿・指ナゲ、口縁部コソナゲ。 胎土は長石を含む白色砂粒・赤色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面褐色～褐色、内面褐色。	小型 スス付着
31	第19図	壺	4号壺穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面直筒正皿・ナゲノナ。胎土は石英・長石等の砂粒を少量、雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
32	第19図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(25.2)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ハケ目・ナゲ、口縁部ハケ目後ナゲ・コソナゲ。 胎土は白色砂粒・白色砂粒・赤色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面黄褐色～褐色。	黒底あり
33	第20図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(26.6)	口縁部1/2	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・指痕正皿、口縁部コソナゲ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色～黒灰色、内面褐色～黒灰色。	
34	第20図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(18.0)	口縁部1/2	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ナゲ、口縁部ハケ目。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
35	第20図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(32.0)	口縁部1/9	調整は外面コソナゲ、内面ナゲ、口縁部コソナゲ後残土、口縁部平すく目。 胎土は白色砂粒・赤色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	丹塗り
36	第20図	壺	4号壺穴建物跡	③(9.8)	胴部1/4～ 底部1/3	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ナゲ。 胎土は白色砂粒・白色砂粒・赤色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面灰褐色。	スス付着
37	第20図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	③(11.4)	胴部1/4～ 底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナゲノナ・指痕正皿。 胎土は白色砂粒・白色砂粒・赤色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面灰褐色。	スス付着
38	第20図	壺	4号壺穴建物跡	③(6.6)	胴部1/3～ 底部1/4	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ナゲ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
39	第20図 図版11	壺	4号壺穴建物跡	①(18.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナゲ・指痕正皿、口縁部コソナゲ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を少量、黒色砂粒をわずかに含む。雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	黒底あり
40	第20図 図版11	甌	4号壺穴建物跡	③9.6	底部完成	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面直筒正皿・ナゲノナ。胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面褐色。	底部穿孔
41	第20図	鉢	4号壺穴建物跡	—	口縁部～ 胴部片	調整は外面ナゲ、内面指ナゲノナ、口縁部コソナゲ。 胎土は砂粒を多く含む。雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色、内面灰褐色。	黒底あり
42	第20図 図版12	鉢	4号壺穴建物跡	①(22.2) ②15.8 ③(6.8)	口縁部～ 底部1/3	調整は外面ハケ目・工具による強いナゲ、内面ハケ目・ナゲ・指痕正皿、口縁部ハケ目後ナゲノナ。 胎土は石英・長石等の砂粒を少量、赤色砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	黒底あり
43	第20図 図版12	鉢	4号壺穴建物跡	①13.7 ②9.9 ③6.3	ほぼ完成	調整は外面ハケ目後ナゲ、内面ハケ目・指痕正皿、口縁部ハケ目後コソナゲ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。雲母・青銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	スス付着
44	第20図 図版12	鉢	4号壺穴建物跡	①(16.0)	口縁部1/2	調整は外面摩滅の島不明瞭。内面ハケ目、口縁部コソナゲ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。赤色砂粒・雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	
45	第20図 図版12	鉢	4号壺穴建物跡	①16.4 ②14.5 ③7.9	口縁部～ 胴部4/5、底 部完成	調整は外面ハケ目・ナゲ、内面指痕正皿・ハケ目。 胎土は砂粒を多く含む。雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
46	第20図 図版12	鉢	4号壺穴建物跡	①(17.1)	口縁部1/2	調整は外面ハケ目後コソナゲ、内面ハケ目、口縁部コソナゲ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒・黒色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	

番号	障国 図版12	種別	出土位置	法量 (cm)	①口縁部 ②底縁 ③胴部 ④蓋部	存在 状態	調整及び特徴	備考
47	第20図 図版12	鉢	4号壷穴建物跡	①14.5 ②9.0 ③7.0	—	口縁部1/5 底部4/5	調整は外面工具類・ハケ目後ナデ、内面ナデ・工具によるナデ・指痕圧痕、口縁部コナデ。 胎土は長石等の砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	照度あり
48	第20図 図版12	鉢	4号壷穴建物跡	① (17.6) ③6.1	②8.0	口縁部1/2～ 底部ほぼ完存	調整は外面ハケ目、底面ナデ・指痕圧痕、内面・工具類ナデ、口縁部コナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く、赤色粘土・角閃石をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	図上復元
49	第20図 図版12	鉢	4号壷穴建物跡	① (11.75) ③6.5	②4.5	口縁部わずか ～底部完存	調整は外面ナデ・指痕圧痕、内面ハケ目。 胎土は白色砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成は不良。色調は内外面ともに黒褐色。	
50	第20図	鉢	4号壷穴建物跡	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指痕圧痕、口縁部コナデ。 胎土は長石等の砂粒を少量、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
51	第21図 図版12	蹄台	4号壷穴建物跡	①10.4 ②18.2 ③10.9	—	ほぼ完形	調整は外面工具によるナデ後コナデ、内面後ものナデか。 胎土は長石等の砂粒を少量、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
52	第21図 図版12	蹄台	4号壷穴建物跡	①10.75 ②17.4 ③11.2	—	完形	調整は外面ハケ目後ナデ消し・工具類、内面指痕圧痕・ナデ、口縁部コナデ。 胎土は長石等の砂粒を少量、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
53	第21図 図版12	蹄台	4号壷穴建物跡	①9.5 ②10.6 ③10.3	—	完形	調整は外面工具によるナデ後コナデ、内面ナデ・工具類。 胎土は砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
54	第21図 図版12	手形	4号壷穴建物跡	① (9.8) ②6.5 ③6.5	—	口縁部1/3～ 胴部1/2～ 底部完存	調整は外面ハケ目後コナデ、指痕圧痕、内面ナデ・指痕圧痕、口縁部コナデ。 胎土は石英などの砂粒を少量、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	照度あり
55	第21図 図版12	手形	4号壷穴建物跡	① (4.3) ②4.7 ③ (1.2)	—	口縁部1/12、 胴部～ 底面全体の1/2	調整は外面指痕圧痕・工具によるナデか、内面ナデ・指痕圧痕。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く、雲母・褐色粘土をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面黄褐色。	
56	第21図 図版12	手形	4号壷穴建物跡	①6.3 ②2.9 ③ (3.3)	—	ほぼ完形	調整は外面工具類・ナデか、内面ナデ、口縁部コナデ。 胎土は石英・長石等の砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
57	第21図 図版12	手形	4号壷穴建物跡	①11.3 ②5.7 ③3.55	—	ほぼ完形	調整は外面ナデ、内面工具によるナデ。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成はやや良好。色調は内外面ともに淡褐色。	スス付着
58	第21図 図版12	手形	4号壷穴建物跡	③ (8.0)	—	胴部1/2	調整は外面ナデ・指痕圧痕、内面ナデ・工具類。 胎土は白色粒・赤色粘土をやや多く含む。焼成はやや良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	スス付着
59	第22図 図版12	手形	10号壷穴建物跡	①4.3 ②1.6 ③3.2	—	ほぼ完形	調整は内外面ともに指痕圧痕、口縁部は硬質。 胎土は白色粒をわずかに、長石等の白色粘土・雲母を少量含む。色調は内外面ともに黄褐色～暗灰色。	
60	第22図	壺	8号壷穴建物跡	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ、口縁部コナデ。 胎土は白色砂粒、赤色粘土を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
61	第22図	壺	8号壷穴建物跡	—	—	胴部～ 底部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粒・赤色粘土・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに粉褐色。	
62	第22図 図版13	蹄台	8号壷穴建物跡	③ (10.6)	—	胴部1/3	調整は外面ナデ・指痕圧痕、内面ナデ。 胎土は白色粒・赤色粘土を少量、白色砂粒・黒色砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。色調は外面に黄褐色、内面粉褐色。	
63	第22図 図版13	手形	8号壷穴建物跡	① (7.8) ②3.7	—	全体の1/5	調整は内外面ともにナデ、指痕圧痕、口縁部コナデ。 胎土は白色粒・赤色粘土を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡緑褐色。	
64	第22図	底部	8号壷穴建物跡	③ (5.4)	—	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指痕圧痕。 胎土は白色砂粒・赤色砂粒、赤色粘土・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色～暗灰色、内面粉褐色。	
65	第22図 図版13	底部	8号壷穴建物跡	③5.5	—	底部完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は長石等の白色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成はやや良好。色調は外面粉褐色～灰褐色、内面粉褐色。	
66	第23図 図版13	壺	1号土坑	① (42.0)	—	口縁部1/6	調整は口縁部コナデ・指痕圧痕、ハケ目。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母を多く、角閃石を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに粉褐色。	
67	第23図	蹄台	7号土坑	③ (12.0)	—	胴部1/8	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面粉褐色、内面粉褐色。	
68	第23図 図版13	壺	7号土坑	① (20.4)	—	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指痕圧痕、口縁部ハケ目後ナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒・雲母・褐色粘土をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色～淡褐色。	片断あり
69	第24図 図版13	壺	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面消し・内面工具による強いナデ、口縁部コナデ。 胎土は白色粒を少量、白色粘土・褐色粘土・雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに粉褐色。	
70	第24図 図版13	壺	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ヘリナデ・埋文、内面コナデ・口縁部コナデ、ナデと目。 胎土は石英・長石等の砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡粉褐色。	

番号	採掘 図版	種別	出土位置	出票 (cm)	①口縁空部 ②底縁空部 ③脚部・底部	保存 状態	調整及び特徴	備考
71	第2490 図版13	甕	1号溝	① (24.0)	—	口縁部1/6	調整は外面面直し・横、内面・口縁部ともにヨコナダ。 胎土は白色砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
72	第2490 図版13	甕	1号溝	② (6.0)	—	底部1/2	調整は内外面ともにナダ。 胎土は白色砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成はやや 良好。色調は外面黄灰色、内面暗褐色。	
73	第2490 図版13	甕	1号溝	③8.15	—	底部完存	調整は外面ナダ、内面ナダ・指頭直肌。 胎土は白色砂粒をわずかに、白色砂粒・黒色砂粒を少量、雲母を やや多く含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色～黄灰色、内面暗褐色。	
74	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は白色砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
75	第2490 図版13	甕	1号溝	① (28.4)	—	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ヨコナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母をやや多く、赤色砂粒を少量 含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	
76	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は石質・長石等の白色砂粒をやや多く、赤色砂粒・雲母を 少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色～灰褐色、内面褐色。	
77	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
78	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
79	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ、口 唇部ナダ。胎土は砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
80	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナダ・ヨコナダ、口縁部ヨコナダ、口唇部 ナダ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・雲母を少量含む。焼成はやや 良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
81	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ヨコナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は白色砂粒・赤色砂粒・黒色砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
82	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面・口縁部ともにヨコナダ、内面ナダ。 胎土は白色砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
83	第2490 図版13	甕	1号溝	① (28.6)	—	口縁部1/6	調整は外面ハケ目後ナダ直、内面・口縁部ともにヨコナダ。 胎土は白色砂粒・白色砂粒・黒色砂粒を少量、雲母をやや多く 含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗褐色。	
84	第2490 図版13	甕	1号溝	① (30.0)	—	口縁部1/8	調整は外面工芸によるヨコナダ・ハケ目、内面ヨコナダ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・赤色砂粒・角閃石を少量、雲母を やや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗褐色。	
85	第2490 図版13	甕	1号溝	① (29.0)	—	口縁部1/6	調整は外面面直し横後ナダ・ハケ目、内面ハケ目後ナダ、口縁 部ヨコナダ。 胎土は白色砂粒をわずかに、白色砂粒・黒色砂粒・雲母を少量含 む。焼成は良好。色調は外面淡褐色～褐色、内面暗褐色～褐色。	
86	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面・口縁部ともにヨコナダ、内面ナダ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・赤色砂粒・雲母を少量含む。焼成 は良好。色調は外面明褐色～黄灰色、内面明褐色～灰褐色。	
87	第2490 図版13	甕	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面沈線・ナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ・キズ目。 胎土は石質等の砂粒・赤色砂粒をやや多く、雲母をわずかに含 む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
88	第2490 図版13	甕	1号溝	① (37.2)	—	口縁部1/6	調整は外面ハケ目・ヨコナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は石質等の白色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良 好。色調は内外面ともに褐色～灰褐色。	
89	第2500 図版13	底部	1号溝	②7.0	—	底部完存	調整は外面ハケ目・ナダ・指頭直肌、内面ナダ。 胎土は石質・長石等の砂粒・赤色砂粒を多く、雲母をわずかに 含む。焼成はやや良好。色調は外面淡褐色、内面暗褐色。	
90	第2500 図版13	底部	1号溝	③6.2	—	底部完存	調整は外面ハケ目・ナダ、内面ナダ。 胎土は長石等の白色砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～灰褐色、内面暗褐色。	
91	第2500 図版13	底部	1号溝	④6.2	—	底部完存	調整は外面ハケ目・ナダ・指頭直肌、内面ナダ。胎土は石質・ 長石等の砂粒を多く含む。焼成はやや良好。色調は外面淡褐色、 内面暗褐色。	
92	第2500 図版13	底部	1号溝	⑤6.4	—	底部完存	調整は外面面直し横後ハケ目・ナダ、内面ナダ・指頭直肌胎土 は白色砂粒を多く、雲母をわずかに含む。焼成は良好。色調は 外面褐色。内面暗褐色。	
93	第2500 図版13	底部	1号溝	⑥6.35	—	底部完存	調整は外面ハケ目・ナダ・指頭直肌、内面ナダ。胎土は石質・ 長石等の砂粒を多く、雲母をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
94	第2500 図版13	底部	1号溝	⑦6.9	—	底部完存	調整は外面ハケ目・ナダ、内面ナダ。 胎土は白色砂粒を多く、雲母・角閃石をわずかに含む。焼成は 良好。色調は外面淡褐色、内面淡黄褐色。	

番号	碑文 図版	種類	出土位置	法量 (cm)	①口縁部断面 ②底径×脚部最大径 ③脚部径×脚部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
95	第250 図版14	底部	1号溝	③6.25	—	底部ほぼ 完存	調整は外面磨鏡仕上げがやや目立ち、内面ナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をかなり多く、雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面褐色、内面褐色色。	
96	第250 図版14	底部	1号溝	③7.5	—	底部完存	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ。 胎土は石英等の白色砂粒・雲母を少々含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
97	第250 図版14	底部	1号溝	③6.6	—	底部完存	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ、指面江流。 胎土は白色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
98	第250 図版14	底部	1号溝	③6.5	—	胴部1/2～ 底部完存	調整は外面ハク目・ナデ、内面褐色江流。 胎土は白色砂粒・赤色粘土・雲母を多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗褐色色、内面暗褐色色～黒褐色。	
99	第250 図版14	高坏	1号溝	—	—	脚部	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ、指面江流。 胎土は石英・長石等の砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
100	第250 図版14	高坏	1号溝	—	—	脚部1/3	調整は脚部外面へラミコテ。脚部内面工具痕。外部ナデ。 胎土は白色砂粒を少量。雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	黒斑あり
101	第250 図版14	器台	1号溝	③8.9	—	胴部～底部	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ。 胎土は白色砂粒を多く、黒色砂粒・赤色粘土・雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色～黒褐色。	
102	第250	鉢	1号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ハク目・内面ヨコナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色、内面褐色色。	
103	第260	複合口縁 器	F545	①10.4	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにハク目、口縁部ヨコナデ・ナデ。 胎土は長石等・石英・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面に赤い赤褐色、内面褐色色。	
104	第260	器	F220	①(12.6)	—	口縁部1/4	調整は外面ハク目前後ナデ。内面ハク目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は長石等の砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
105	第260 図版14	器	F264	①(13.4)	—	口縁部1/3	調整は内外面ともにハク目、口縁部ヨコナデ。 胎土は石英・長石等の砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
106	第260	甕	F488	—	—	口縁部片	調整は外面ハク目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は長石等の白色砂粒・赤色粘土・雲母を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面褐色色、内面黒褐色色。	
107	第260	甕	F154	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は全く良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	
108	第260	甕	F576	—	—	口縁部片	調整は外面ハク目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色色、内面淡褐色色。	
109	第260	底部	F437	③(5.5)	—	底部1/4	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ。 胎土は石英・長石・赤色砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色色、内面淡黄灰色。	
110	第260 図版14	底部	F542	③7.0	—	胴部1/8～ 底部完存	調整は外面ハク目前後ナデ、内面ナデ。 胎土は白色砂粒をやや多く、赤色粘土をわずかに含む。焼成は全く良好。 色調は外面褐色色、内面褐色色。	スス付着
111	第260 図版14	底部	F255	③(10.6)	—	底部1/4	調整は外面ハク目・ナデ、内面磨鏡の高不粗。 胎土は白色砂粒をやや多く、赤色粘土・雲母をわずかに含む。 焼成は全く良好。 色調は外面淡褐色色、内面暗褐色色。	
112	第260	底部	F152	③(7.4)	—	底部1/5	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ。 胎土は白色砂粒を少量。雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色色。	スス付着
113	第260	底部	F549	③(8.0)	—	底部1/5	調整は外面ハク目・ナデ、内面ナデ。 胎土は石英・長石・赤色粘土・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色色、内面暗褐色色。	
114	第260	底部	F960	③(9.2)	—	底部1/4	調整は外面ナデ、内面ナデ、指面江流。 胎土は石英・長石をやや多く、雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに赤褐色色。	
115	第260	底部	F451	③(7.7)	—	底部4/7	調整は外面ナデ、内面ナデ、指面江流。 胎土は石英・長石を少量。赤色砂粒をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は外面に赤い黄褐色、内面黄褐色。	
116	第260	鉢	F255	①(14.2)	—	口縁部1/5	調整は口縁部ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は石英・長石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色色、内面淡褐色色。	
117	第260 図版14	台付鉢	F78	①8.4 ②7.5 ③7.35	—	完形	調整は外面ハク目前後ナデ、指面江流。内面・脚部内面ともにナデ、指面江流、口縁部ヨコナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土を少量。雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色色、内面暗褐色色。	
118	第260	把手	F77	—	—	把手のみ	調整は指面江流。 胎土は白色砂粒を少量。赤色粘土・雲母をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに褐色色。	
119	第260 図版14	器台	F325	⑤(17.8)	—	胴部1/4	調整は外面ハク目前後ナデ、内面ハク目前後ナデ、指面ヨコナデ。 胎土は石英・長石等の砂粒をやや多く、雲母をわずかに含む。焼成は全く良好。 色調は内外面ともに褐色色。	

番号	種別 図版	種別	出土位置	出典 (cm)	①口縁部 ②口縁部 ③口縁部 ④口縁部 ⑤口縁部 ⑥口縁部 ⑦口縁部 ⑧口縁部 ⑨口縁部 ⑩口縁部 ⑪口縁部 ⑫口縁部 ⑬口縁部 ⑭口縁部 ⑮口縁部 ⑯口縁部 ⑰口縁部 ⑱口縁部 ⑲口縁部 ⑳口縁部 ㉑口縁部 ㉒口縁部 ㉓口縁部 ㉔口縁部 ㉕口縁部 ㉖口縁部 ㉗口縁部 ㉘口縁部 ㉙口縁部 ㉚口縁部 ㉛口縁部 ㉜口縁部 ㉝口縁部 ㉞口縁部 ㉟口縁部 ㊱口縁部 ㊲口縁部 ㊳口縁部 ㊴口縁部 ㊵口縁部 ㊶口縁部 ㊷口縁部 ㊸口縁部 ㊹口縁部 ㊺口縁部 ㊻口縁部 ㊼口縁部 ㊽口縁部 ㊾口縁部 ㊿口縁部	保存 状態	調整及び特徴	備考
120	第279図 図版14	甕	F454	①20.6 ②27.0 ③7.8~8.1	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、ナブ。内面ハケ目後ナブ。口縁部正。胎土は石英・長石等の白色砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	スズ付着	
121	第280図 図版14	甕	包含層	①(16.8)	口縁部1/3	調整は外面内面正。ハケ目。内面ナブ。ハケ目。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・黄色砂粒・黄銅・角閃石を少量含む。焼成は良好。色調は外面褐色～暗褐色。内面暗褐色。		
122	第280図 図版14	甕	包含層	①(15.6)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目。内面ハケ目。内面正。口縁部コソナブ。ハケ目後コソナブ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・黄銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。		
123	第280図	甕	包含層	—	口縁部片	調整は外面ナブ。内面内面正。口縁部ナブ。コソナブ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・白色砂粒・赤色砂粒・黄銅を少量含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色～灰褐色。内面黄褐色～灰褐色。		
124	第280図	底部	包含層	③(9.2)	底部1/4	調整は外面ハケ目。ナブ。内面内面正。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・白色砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗褐色。		
125	第280図	高坏	包含層	—	胴部1/2	調整は外面ナブ。内面・胴部内面ともにナブ。胎土は白色砂粒を多く、赤色砂粒・黄色砂粒を少量、黄銅・角閃石をわずかに含む。焼成は中不良。色調は外面黄褐色～黄褐色。内面暗褐色。		
126	第280図 図版14	手捏	包含層	—	坏底部2/3、 胴部の一部	調整は内外面ともに撃滅のみ不明。胎土は礫をわずかに、石英・長石等の白色砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。		
127	第290図	甕	11号型穴建物跡	①(16.0)	口縁部片	調整は外面タタキ。内面ハケ目後ナブ。ハケ目。口縁部ハケ目後ナブ。胎土は砂粒をやや多く、角閃石・黄銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。		
128	第290図	鉢	12号型穴建物跡	—	胴部片	調整は外面タタキ後ナブ。内面細い貝によるナブ。胎土は白色砂粒・黄銅を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗褐色。		
129	第290図 図版15	底部	14号型穴建物跡	—	胴部1/3～ 底部2/3	調整は外面ナブ。内面ハケ目後ナブ。胎土は白色砂粒を多く、黄銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。		
130	第290図 図版15	甕	15号型穴建物跡	—	胴部～胴部 1/5	調整は外面タタキ後ハケ目。内面ハケ目。タタキ後ナブ。胎土は白色砂粒をやや多く、赤色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面暗褐色。	黒曜あり	
131	第290図 図版15	甕	15号型穴建物跡	①(13.2)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目後ナブ。内面ナブ。ハケ目。胎土は白色砂粒を多く、赤色砂粒・黄銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色。内面黄褐色。	スズ付着	
132	第290図 図版15	底部	15号型穴建物跡	③4.0	底部完形	調整は外面ハケ目。内面内面正。ナブ。胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く、黄銅・赤色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色。内面暗褐色。		
133	第290図 図版15	鉢	15号型穴建物跡	①12.5 ②5.65 ③3.4	口縁部1/2～ 底部ほぼ完形	調整は外面ハケ目後ナブ。ミツ。口縁部ハケ目後コソナブ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒をわずかに、黄銅をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗褐色。		
134	第290図	鉢	15号型穴建物跡	①(12.4)	口縁部1/8	調整は内面ハケ目。口縁部ナブ。胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。		
135	第290図 図版15	小型器台	15号型穴建物跡	①13.1 ②7.8 ③13.5	ほぼ完形	調整は内外面ともに調整不明。内面に内面正。胎土は石英・長石等の白色砂粒を少量、赤色砂粒・黄銅・角閃石をわずかに含む。焼成は中不良。色調は内外面ともに黄褐色。	黒曜あり	
136	第290図 図版15	脚付鉢?	15号型穴建物跡	⑤(6.6)	口縁部1/12～ 底部1/6	調整は外面ナブ。工具痕か。内面撃滅のみ不明。胎土は石英・長石等の白色砂粒・黄銅をやや多く含む。焼成は中不良。色調は内外面ともに黄褐色。		
137	第290図 図版15	甕	9号型穴建物跡	—	胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目後ナブ。胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く、黄銅をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	黒曜あり	
138	第290図	甕	9号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面内面正。ナブ。内面ハケ目。口縁部コソナブ。胎土は白色砂粒・黄銅をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色。内面暗褐色。		
139	第290図 図版15	小型 丸底甕	9号型穴建物跡	①(9.4) ③(7.8)	全体1/3	調整は外面ハケ目後ナブ。内面ナブ。口縁部ナブ。胎土は石英・長石等の白色砂粒を少量、黄銅をやや多く、角閃石をごくわずかに含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色。内面暗褐色～暗褐色。		
140	第300図 図版15	甕	17号型穴建物跡	①(26.0)	口縁部～ 胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目。口縁部工具によるコソナブ。胎土は白色砂粒・赤色砂粒・赤色砂粒・黄銅を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。		
141	第300図	甕	17号型穴建物跡	—	口縁部片	調整は外面ナブ。内面・口縁部ともにコソナブ。胎土は白色砂粒・黄銅をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色。内面暗褐色。		

番号	種別	種別	出土位置	法量 (cm)	①口縁部 ②底径 ③最大径 ④脚高 ⑤底径	残存 状態	調整及び特徴	備考
142	第300号 図版15	甕	17号型穴建物跡	① (29.8)		口縁部1/4	調整は外面タタキ後ハケ目、内面工具によるナデ・口縁部ナデ。 胎土は白色粒・黄緑を少量、石黄・長石等の白色砂粒・黒色砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～赭褐色、内面暗褐色～黒灰色。	
143	第300号 図版15	甕	17号型穴建物跡	③ (4.0)		口縁部以外ほぼ完存	調整は外面ヘラケズリ後ハケ目後ナデ・タタキ、内面ハケ目後ナデ。 胎土は白色砂粒を少量、黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面黄褐色。	黒灰あり
144	第300号 図版15	鉢	17号型穴建物跡	①29.5 ②11.85		口縁部1/2～ 底部	調整は外面ハケ目・ナデ・ヘラケズリ、内面ハケ目、口縁部ココナデ。 胎土は砂粒・黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	黒灰あり
145	第310号 図版15	甕	10号型穴建物跡	①17.0 ②16.7 ③4.0		口縁部1/2～ 胴部2/3～ 底部完存	調整は外面指圧直後、ハケ目、内面指圧直後・ヘラケズリ後ナデ。 胎土は黒・石黄・長石を含む白色砂粒を多く、赤色粘土をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	黒灰あり
146	第310号 図版15	小型 丸底甕	10号型穴建物跡	① (9.2)		口縁部～ 胴部3/5	調整は外面ナデ・ヘラケズリ、内面、口縁部ともにハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土を少量、黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	黒灰あり
147	第310号 図版15	高杯	10号型穴建物跡	① (17.6)		杯部1/2	調整は外面ナデ、内面直後、内面磨削の痕不明、口縁部ココナデ。 胎土は白色砂粒を少量、赤色粘土・黄緑を多く含む。黒色粘土・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
148	第320号 図版16	甕	10号土坑	—		胴部片	調整は外面タタキ目、内面当て直後。 胎土は白色砂粒を少量、黄緑をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～暗褐色。	
149	第320号 図版16	坏蓋	10号土坑	①36.6 受部径10.7 ②2.8		ほぼ完形	調整は外面ヘラケズリ、内面指圧ナデ後不定方向ナデ。 胎土は白色粘土・黄緑を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	ヘラ記号あり
150	第320号 図版16	坏蓋	10号土坑	① (9.0) 受部径 (10.8)		口縁部1/4	調整は外面指圧後ヘラケズリ、内面指圧ナデ後不定方向ナデ。 胎土は白色砂粒・黒色粘土を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
151	第320号 図版16	坏身	10号土坑	① (9.4) ② (3.1)		全体の1/2	調整は外面沈澱一帯・ヘラケズリ、口縁部指圧ナデ。 胎土は白色砂粒・黒色粘土を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	ヘラ記号あり
152	第320号 図版16	脚部	10号土坑	⑤ (11.2)		脚部1/4	調整は内外面ともに指圧ナデ。 胎土は長石等の白色砂粒・白色・赤色粒・黄緑を少量含む。焼成は良好。色調は内外面暗褐色。	
153	第330号 図版16	坏蓋	19号土坑	—		口縁部片	調整は外面指圧後ヘラケズリ、内面指圧ナデ後不定方向ナデ。 胎土は白色粘土を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰白色。	
154	第330号 図版16	高杯	19号土坑	① (13.0)		杯部1/3	調整は内外面ともに指圧ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土・黒色粘土を少量、黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～暗灰色。	
155	第330号 図版16	瓦器類	14号土坑	底台径 (6.8)		底部1/8	調整は外面ナデ。工具によるナデ、内面ナデ。 胎土は赤色粘土・黄緑をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は外面淡黄褐色、内面黒灰色。	
156	第330号 図版16	甕	9号土坑	① (10.1) ②14.65		全体の1/4	調整は外面ハケ目・ナデ・ヘラケズリ、内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土を多く、黄緑を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～黄褐色、内面暗褐色。	
157	第330号 図版16	台付鉢	9号土坑	① (17.4)		口縁部～ 胴部1/4、 脚部ほぼ 完存	調整は外面磨削の痕不明、内面ハケ目、脚部内面指圧直後、ハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・赤色粘土を多く、黒色粘土・赤色粘土を少量、黄緑・角閃石をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
158	第330号 図版16	甕	9号土坑	—		口縁部1/4	調整は外面タタキ、ハケ目、内面ハケ目、口縁部ココナデ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・黄緑を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面二色・黄褐色。	
159	第330号 図版16	皿	9号土坑	—		口縁部～ 底部片	調整は内外面ともにナデ。口縁部ココナデ。 胎土は白色砂粒・褐色砂粒・黒色砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰白色。	
160	第330号 図版16	脚部	9号土坑	③ (11.0)		脚部1/5	調整は外面ハケ目後ナデ。内面ナデ、脚部ココナデ。 胎土は黒・白色砂粒・黄褐色・黄緑を含む。焼成は良好。 色調は内外面に赤い黄褐色、灰褐色に赤い褐色。	黒灰あり
161	第330号 図版16	鉢	9号土坑	① (36.6)		口縁部～ 胴部1/4	調整は外面磨削の痕不明、内面ハケ目。 胎土は白色粒・赤色粒・白色砂粒・黒色砂粒・赤色粘土を多く含む。黄緑を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面暗褐色。	
162	第330号 図版16	杯	F14	①12.7 ②5.3		完形	調整は外面ナデ。内面ハケ目。 胎土は白色砂粒を少量、白色砂粒・黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	黒灰あり
163	第340号 図版16	小皿	11号土坑	① (9.2) ②0.9 ③ (7.9)		全体の1/6	調整は底部指圧直後・指圧直後、口縁部ココナデ。 胎土は白色粘土・黒色粘土を少量、黄緑を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
164	第340号 図版16	釜小鍋	11号土坑	—		口縁部1/8	調整は口縁部ココナデ・スタンプ文様・ハケ目後ナデ直し。 胎土は白色粘土・黄緑を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色～淡黄褐色。	スス付着
165	第340号 図版16	釜小鍋	11号土坑	①14.8 ②19.3 胴部最大径24.6		上部ほぼ完 存、下部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ。胴部4/5直にスタンプ文様・指圧直後、突縁部ココナデ、内面ナデ・ハケ目・指圧直後。 胎土は白色粘土・黄緑をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～淡褐色～黄褐色、内面黄褐色。	スス付着

番号	種別 図版	種別	出土位置	法典 (cm)	①口縁空部 ②口縁外縁部最大径 ③脚部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
166	第3498 図版16	釜・小鍋	11号土坑	①33.6 ②15.4 ③15.45	—	口縁部～ 胴部完存～ 底部1/2	調整は内面ナダ、内面ナダ、口縁部ヨコナダ。 胎土は赤褐色をわずかに含む。雲母を多く含む。焼成はやや良好。 色調は外面暗褐色、内面褐色～暗褐色。	スス付着
167	第3498 図版16	椀鉢	11号土坑	①32.9 ②12.5 ③(16.9)	—	口縁部～ 胴部完存～ 底部1/2	調整は外面ハケ目・ナダ、内面指圧痕・ナダ・窪目、口縁部 ヨコナダ、指圧痕。 胎土は白色砂粒・黒色粒を少量含む。焼成はやや良好。 色調は外面黒褐色、内面褐色～灰褐色。	スス付着
168	第3498 図版16	白磁碗	11号土坑	①16.6 ②7.9 ③5.9	—	全体の2/3	調整は内外面ともにナダ、高台は削り出し。 着地は淡灰褐色～淡緑褐色で白色砂粒を少量含む。 釉薬は緑がかった黄灰色のある透明。裏付きに6小州の目跡あり。 焼成は良好。	
169	第3498 図版17	白磁碗	11号土坑	①(13.3)	—	口縁部1/16	着地は白灰色で黒色粒を含むが精良。 釉薬は光沢のある緑色。 焼成は良好。	
170	第3498 図版17	白磁碗	11号土坑	③7.2	—	底部 ほぼ完存	着地は白灰色で黒色粒・褐色粒を少量含む。 釉薬は透明。 焼成は良好。	
171	第3506 図版17	杯	12号土坑	—	—	口縁部～ 底部片	調整は外面斜削ナダ、底部斜削垂直、内面斜削ナダ後不定方 向ナダ。 胎土は石膏・長石等の白色砂粒をやや多く、雲母をわずかに含 む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに白～黄灰色。	
172	第3506 図版17	椀	12号土坑	③(7.2)	—	底部1/6	調整は外面斜削ナダ・ナダ、内面ミダナダ、高台は削り。 胎土は白色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面灰色、内面暗灰色。	
173	第3506 図版17	青磁碗	12号土坑	①(14.4)	—	口縁部1/8	着地は白灰色で黒色粒を含むが精良。 釉薬は薄緑色で透明。 焼成は良好。	同安窯系
174	第3506 図版17	瓦椀碗	12号土坑	③(7.0)	—	底部1/2	調整は外面斜削ナダ・ナダ、内面ナダ。 胎土は雲母をわずかに含む。焼成はやや良好。 色調は外面白灰色、内面暗灰色。	
175	第3506 図版17	青磁碗	12号土坑	—	—	口縁部片	着地は白灰色で白色砂粒・黒色砂粒を含むが精良。 釉薬は薄緑色で透明。焼成は良好。	同安窯系
176	第3506 図版17	白磁碗	12号土坑	—	—	口縁部片	着地は白色で黒色粒をやや多く含むが精良。 釉薬は透明。 焼成は不良。	
177	第3506 図版17	小皿	15号土坑	—	—	口縁部～ 底部の小片	調整は内面ナダ、底部斜削垂直、口縁部斜削ナダ。 胎土は雲母をやや多く、褐色粒をわずかに含む。焼成は良 好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
178	第3506 図版17	白磁高台	15号土坑	高台径(6.8)	—	高台部1/3	調整は外面ハケ目後加刷。高台ケズリ出し。 着地は黄褐色で黒色粒を含むが精良。 釉薬は透明でやや光沢あり。焼成は良好。	
179	第3506 図版17	青磁碗	15号土坑	—	—	胴部片	調整は外面ハケ目後加刷。 着地は白灰色で黒色粒をわずかに含むが精良。 釉薬は淡緑色で透明。焼成は良好。	同安窯系
180	第3506 図版17	鉢	16号土坑	—	—	口縁部片	調整は内外面ともに斜削ナダ。 胎土は白色砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。自然釉部分透明～暗灰色。	東洋系
181	第3506 図版17	合子蓋	17号土坑	—	—	蓋の破片	着地はすんだ白色で精良。 外面の釉薬は本色で透明。焼成は良好。	青白磁
182	第3506 図版17	白磁碗	18号土坑	—	—	口縁部片	着地は白灰色で黒色粒をわずかに含むが精良。 釉薬は淡緑色で透明。焼成は良好。	
183	第3606 図版17	壺	2号溝	①(12.8)	—	口縁部1/2	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナダ。 胎土は白色砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
184	第3606 図版17	鍋	2号溝	①(28.2) ②11.8	—	全体の1/3	調整は外面指圧痕・ナダ・ハケ目、内面ハケ目後ナダ、口縁 部ヨコナダ。 胎土は石膏・長石等の白色砂粒をやや多く、雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面黒褐色～灰褐色、内面に白～褐色～灰褐色。	スス付着
185	第3706 図版17	PS17	PS17	①(6.8) ②0.95 ③(5.6)	—	全体の1/2	調整は内外面ともにナダ、底部斜削垂直、板状圧痕。 胎土は白色砂粒・黒色粒・赤色粒を少量。雲母を多く含 む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
186	第3706 図版17	小皿	PS15	①(7.6) ②1.1 ③(4.4)	—	全体の1/6	調整は内面ナダ、口縁部ヨコナダ、底部ナダ。 胎土は白色砂粒・褐色粒を少量。雲母をわずかに含む。焼成 は良好。 色調は外面淡緑灰色、内面淡緑灰色～淡褐色。	スス付着
187	第3706 図版17	小皿	PS95	①(9.4) ②0.9 ③(7.0)	—	全体の1/6	調整は口縁部、内外面ともにヨコナダ、底部斜削垂直。 胎土は白色砂粒・赤色粒・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
188	第3706 図版17	小皿	P404	①(9.5) ②1.1 ③(7.8)	—	全体の1/3	調整は内外面ともにヨコナダ、底部斜削垂直、板状圧痕。 胎土は赤褐色・黒色粒・黒色粒をやや多く、雲母を多く含む。焼成 は良好。色調は内外面ともに淡緑褐色。	
189	第3706 図版17	杯	PS5	①(12.2) ②2.7 ③(8.4)	—	全体の1/4	調整は内外面ともにナダ、底部斜削垂直。 胎土は白色砂粒・黒色粒をわずかに含む。白色砂粒・黒色粒・褐色 粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
190	第3706 図版17	杯	PS35	①(12.1) ②2.45 ③(8.5)	—	全体の1/2	調整は内外面ともにナダ・斜削ナダ、底部斜削垂直。 胎土は白色砂粒・褐色粒を少量。雲母をやや多く含む。焼成 はやや良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	

番号	碑名 図版	種類	出土位置	法量 (cm)	①口縁部断面 ②底径・口縁部最大径 ③脚幅④・脚高⑤	残存 状態	調整及び特徴	備考
191	第37図 図版17	鉢	F416	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。口縁部コナデ。 胎土は白色砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰色～暗灰色。	瓦質
192	第37図	鉢	F416	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ～ラケズリ。内面ハケ目・ナデ。 胎土は白色砂粒・黒色砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰色。	須恵質
193	第37図	楕鉢	F31	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ココナデ。内面ハケ目・窪目。口縁部はココナデ。 胎土は白色砂粒をわずかに。白色粒子・赤色粒子を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗色～暗褐色。内面白灰色。	
194	第37図	瓦器胸	F494	—	—	底部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粒子・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色。内面暗灰色。	
195	第37図	高台	F462	—	—	底部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は白色粒子・褐色粒子・黒色粒子を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰色。	
196	第37図	白磁胸	F433	—	—	口縁部片	胎土は灰色で黒色粒子・褐色粒子を少量含む。 釉薬は透明。 焼成は良好。	
197	第37図	白磁胸	F129	—	—	口縁部片	胎土は灰褐色で黒色粒子を少量含む。 釉薬は透明。 焼成は良好。	
198	第37図	白磁胸	F503	—	—	口縁部片	胎土は淡灰褐色で褐色粒子を少量含む。 釉薬は透明。 焼成は良好。	
199	第37図	青磁高台	F206	—	—	底部片	胎土には無釉面を多量含む。 胎土は灰色で白色粒子をわずかに含む。釉薬は緑色。焼成は良好。	
200	第37図	水注	F416	—	—	注口部	胎土は灰色で緑色。 釉薬は透明。	青白磁
201	第37図 図版17	中国陶器	F530	① (10.4)	—	口縁部1/6	胎土は淡黄灰色で緑色。 無釉面。 焼成は良好。	
202	第38図 図版17	高杯	包含層	⑤ (13.8)	—	外の底部完存 ～脚幅部1/8	調整は外面内面ナデ・脚幅部外面ハケ目・脚幅部内面ハケ目・内面ナデ。 胎土は石英・長石等の白色砂粒・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。 調整は口縁部ナデ。 胎土は白色砂粒を少量。白色粒子をやや多く。雲母をごくわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
203	第38図	杯身	包含層	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ・内面ナデ。底部ナデ切り。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く。赤色粒子・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
204	第38図 図版17	杯	包含層	① (13.8) ③9.1	②2.8 ④2.3	口縁部 ごくわずかに 底部2/3	調整は外面ナデ・内面ナデ。底部ナデ切り。 胎土は石英・長石等の白色砂粒をやや多く。赤色粒子・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
205	第38図 図版17	杯	包含層	① (13.8) ③9.0	②2.45 ④2.4	口縁部ごく わずかに 底部3/4	調整は外面ナデ・内面ナデ。底部ナデ切り。 胎土は白色粒子・赤色粒子・雲母をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
206	第38図 図版17	青磁皿	包含層	①10.2	②2.6 ③3.7	ほぼ完形	胎土は淡黄褐色で黒色粒子・褐色粒子を含むが精良。 焼成は良好。 釉薬は光沢のある緑色。	磁泉系素
207	第38図	鉢	包含層	—	—	口縁部片	調整は外面・口縁部ともにナデ。内面ナデ～ラケズリ。 胎土は白色粒子・褐色粒子・褐色粒子を少量含む。黒色粒子をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面灰色～黄灰色。内面灰色。	
208	第38図	青磁皿	包含層	① (9.7)	—	口縁部1/6	胎土は灰褐色で白色粒子を多く含む。 釉薬は緑色。口縁部は黄褐色。 焼成は良好。	
209	第38図	白磁胸	包含層	—	—	口縁部片	胎土は灰色褐色で白色粒子・黒色粒子・褐色粒子を少量含む。 釉薬は緑色。 焼成は良好。	
210	第38図	白磁胸	包含層	—	—	口縁部片	胎土は灰色褐色で白色粒子・褐色粒子を含む。 釉薬は緑色。 焼成は良好。	

表2 石尺遺跡7次調査出土土製品観察表

() は残存数

番号	塚区 図版18	種別	出土位置	法量 (cm)	残存状態	色調	調整及び特徴
1	第39区 図版18	投擲	1号溝	長さ: 3.8 幅: 1.9 厚さ: 2.0	ほぼ完形	淡黄灰褐色	胎土は白色砂粒・雲母をわずかに含む。 焼成は良。
2	第39区 図版18	土鏝	検出時	長さ: (1.9) 幅: 1.45 厚さ: 1.4 穿孔径: 0.3×0.3	1/3	暗褐色～暗灰褐色	胎土は砂粒を多く、雲母を少量含む。 焼成は良好。
3	第39区 図版18	土鏝	13号竪穴建物跡	長さ: (2.4) 幅: 3.6	1/2割	灰白色～灰色	調整は内面ナシ。 胎土は白色砂をわずかに含むが黒人物は少なく、 焼成は良。
4	第39区 図版18	泥面子	検出時	長さ: 2.3 幅: 1.35 厚さ: 0.5	ほぼ完形か	内外面ともに焼灰色	胎土は黒人物はほとんどなく、 焼成は良好。
5	第39区 図版18	不明 土製品	P388	長さ: 17.3 幅: 5.25 厚さ: 4.1	小片	淡褐色～淡黄褐色	胎土は石英・長石を少量含む。スサと思われる細長 い気泡が多くみられる。 焼成は良。特徴は縦・横方向に管状の跡が残る。

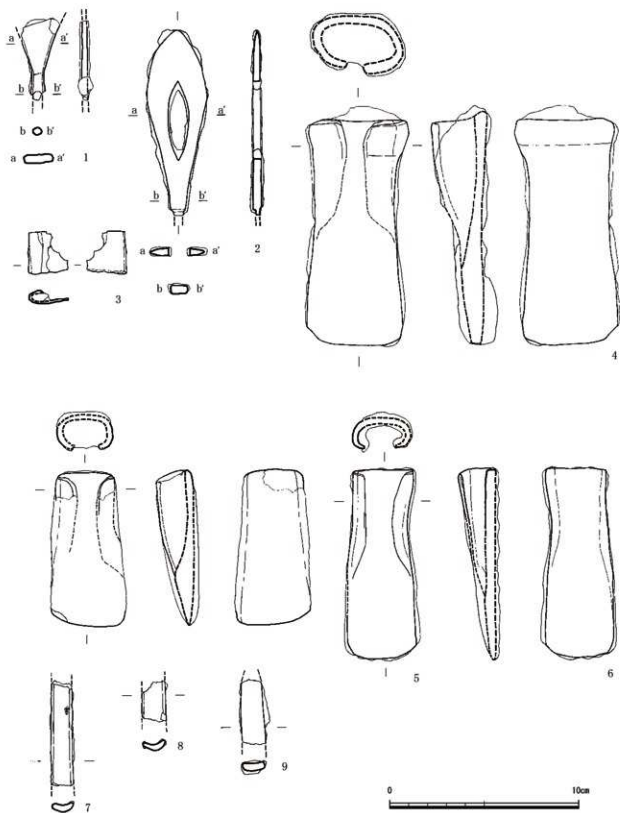
(3) 鉄器・鉄滓 (図版18-(2)・19、第40～42図、表3)

鉄器 (図版19、第40・41図、表3)

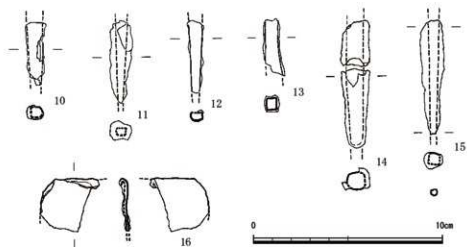
1・2は鉄鏝。1は15号竪穴建物跡、2はP67から出土した。1は有茎の基部が残存するが刃部を欠損するため型式は判然としない。2は大型の鉄鏝である。鏝身中央に杏仁形の透孔をもつ。弥生時代後期後半の可能性もあるが、鬺があり頸部が刃部に向かってわずかに外反していることや、基部の破断面付近に段が付くように見えることから古墳時代に属すると思われる。3は15号竪穴建物跡から出土した。鉄鏝の基部の折返しにあたと考えているが、断面が非常に薄く違う製品になる可能性もある。4～6は袋状鉄斧である。4は7号竪穴建物跡、5はP1、6は4号竪穴建物跡からの出土である。いずれも完形品で、刃部に比べ袋部の厚みは薄く、袋部の断面は楕円形を呈す。4は有帯部があるように見えるが、錆が厚く付着しているため判然としない。5は使用による砥ぎ減りのため短く、6も刃部が丸くなっている。7～9は鉋。7は2号竪穴建物跡、8は1号竪穴建物跡、9は19号土坑からの出土である。横断面は三日月状を呈す。欠損部が多いため詳細は不明である。10～15は棒状の鉄器。10は12号竪穴建物跡、11は2号竪穴建物跡、12・13は15号竪穴建物跡、14は2号溝、15はP456からの出土である。鉄釘と思われるが、鉄鏝の一部である可能性もある。横断面形は基本的な方形で、14のみ円形である。16は板状の不明鉄製品である。検出時に出土した。わずかに上部と左側部を折り返している。非常に薄く、断面が鉄鏝としている3と似ている。

鉄滓 (図版18-(2)、第42図、表3)

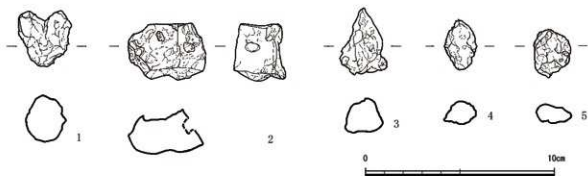
1は5号竪穴建物跡、2はP31、3はP524、4はP243、5は検出時に確認した。ピットからではあるが、いずれも竪穴建物跡に近い位置で出土している。1～5はいずれも全体に小さな気泡が確認できる。2については、小豆大の気泡が開く。金属探知機で確認してみたが、鉄分は全く残存していなかった。



第40图 铁器实测图① (1/2)



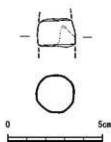
第41図 鉄器実測図② (1/2)



第42図 鉄滓実測図 (1/2)



第43図 管玉実測図 (1/2)



第44図 中型実測図 (1/2)

表3 石尺遺跡7次調査出土鉄器・鉄滓観察表

()は推定値

番号	検出 図版	種別	出土位置	法量				備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
1	第40図 図版19	鉄線	15号壔穴建物跡	(4.3)	(2.1)	0.5	3.8	
2	第40図 図版19	鉄線	P67	9.8 穿孔長 4.1	3.2 穿孔幅 1.15	0.3~0.5	23.0	
3	第40図 図版19	不明	15号壔穴建物跡	2.3	2.15	0.7	3.2	
4	第40図 図版19	袋状鉄滓	7号壔穴建物跡	12.6 本体11.8	5.2	3.2	255.3	
5	第40図 図版19	袋状鉄滓	P1	8.2	4.0	2.0 本体1.8	98.5	
6	第40図 図版19	袋状鉄滓	4号壔穴建物跡	10.1	4.0	1.9 (露部)	79.8	
7	第40図 図版19	鐵	2号壔穴建物跡	(5.5)	1.1	0.4	5.0	
8	第40図 図版19	鐵	1号壔穴建物跡	(2.15)	1.25	0.3	2.1	
9	第40図 図版19	鐵	19号土坑	(3.5)	1.3	0.4	7.5	
10	第41図 図版19	鉄釘か	12号壔穴建物跡	(3.3)	0.8	0.5	5.5	
11	第41図 図版19	鉄釘か	2号壔穴建物跡	(4.3)	0.6	0.5	8.1	
12	第41図 図版19	鉄釘か	15号壔穴建物跡	(3.85)	0.6	0.5	2.7	
13	第41図 図版19	鉄釘か	15号壔穴建物跡	(3.0)	0.8	0.9	4.1	
14	第41図 図版19	鉄釘か	2号溝	(6.7)	0.9	1.0	20.0	
15	第41図 図版19	鉄釘か	P456	(6.0)	0.6	0.6	9.8	
16	第41図 図版19	不明	検出時	(2.9)	(3.1)	0.35	3.4	
鉄滓1	第42図 図版18	鉄滓	5号壔穴建物跡	3.0	2.8	2.45	20.4	
鉄滓2	第42図 図版18	鉄滓	P31	3.0	4.1	2.35	49.8	
鉄滓3	第42図 図版18	鉄滓	P524	3.5	2.5	1.85	12.9	
鉄滓4	第42図 図版18	鉄滓	P243	2.65	1.75	1.25	5.8	
鉄滓5	第42図 図版18	鉄滓	検出時	2.55	2.0	1.1	6.0	

(4) 玉類 (図版 18-(3)、第 43 図)

4号土坑から出土した石製の管玉である。直径6mm、高さ8mmを測り、淡緑色を呈す。直径中心に若干斜めに片側から穿孔する。穴の大きさは直径2mmである。

(5) 中型 (第 44 図)

P239から出土した。P239は1号壔穴建物跡の範囲に存在する。直径1.7~2.0cmを測る。両端部は欠損し、1.5cm分が残存する。真土製で全体的に黒変する。付着物などは見受けられない。

(6) 石器・石製品 (図版 20～23、第 45～53 図、表 4)

竪穴建物跡出土石器・石製品 (1～14・16)

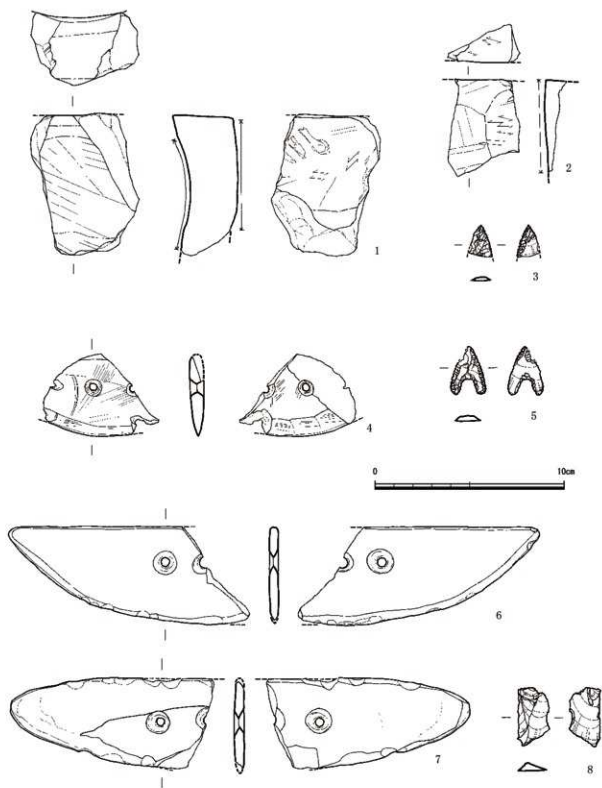
1～3は12号竪穴建物跡から出土した。1・2は砥石である。1は砂岩系で、砥面が2か所に残る。片面は凹状になるほど使用しているのに対し、裏面は擦痕がわずかに見えるが形が変わるほどではない。2は凝灰岩系である。3は黒曜石の石鏃であるが基部を欠く。右側面には調整が少なく、未製品の可能性もある。4は2号竪穴建物跡から出土した石包丁の破片である。泥岩系の石材を使用し、紐穴を両面から穿孔する。刃部は数度に分けて砥ぎ、刃を作っている。5は3号竪穴建物跡から出土した黒曜石の石鏃である。先端側面を一部欠く。平面三角形上の凹基式。6～8は4号竪穴建物跡から出土した。6・7は石包丁である。6の平面形は、背部が直線的な外湾刃半月形。7の平面形は紡錘形である。どちらも紐穴を両面から穿孔し開けているが、7は刃部寄りにあり、何度も砥ぎ直しを行ったと考えられる。石材は6が泥岩、7が砂岩である。8は黒曜石の剥片である。10は14号竪穴建物跡から出土した砂岩系の玉砥石である。両面に筋状の砥面があるが、半円しか残っておらず、半円を切っている面も砥面として使われていることから、本来は玉砥石であったが、別の用途の砥石として転用したと考えられる。9は15号竪穴建物跡から出土した砂岩系の砥石である。4面を砥面として使用しており、どの面もよく使用され湾曲している。大きさは15 cmを超える。11は5号竪穴建物跡から出土した二次加工剥片である。ボジ面の右側に加工を加え刃部とする。12～14は7号竪穴建物跡から出土した。12は玄武岩の磨製石斧。基部に近いと思われるが、基部、刃部とも欠損する。13・14は砥石である。13は泥岩系の砥石で、全体的に摩滅しているが、1面にわずかに工具痕が残る。14はきめの細かい砂岩で、5面を砥石として使用する。擦痕以外に3面に筋状の工具痕が残る。16は10号竪穴建物跡P3から出土した石包丁である。直線的な刃部と外湾背部の半月形で、紐穴は背部寄りに両面から穿孔する。

土坑出土石器・石製品 (15・17)

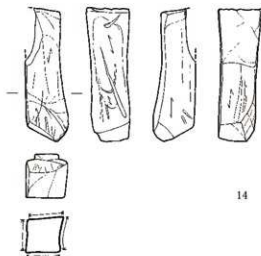
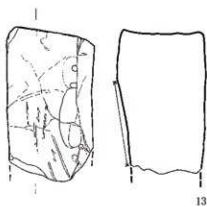
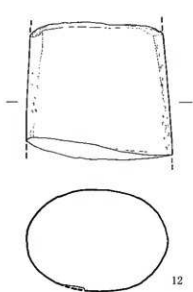
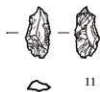
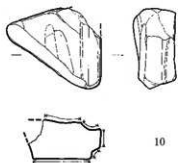
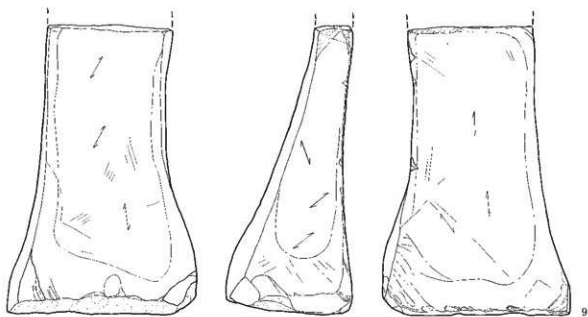
15は5号土坑から出土した砂岩系の砥石である。両端部を欠き1面も大部分が剥落しているが、少なくとも4面を砥面として使用する。17は18号土坑から出土した泥岩系の砥石と思われる。2面に擦痕が残る。

溝出土石器・石製品 (18～31)

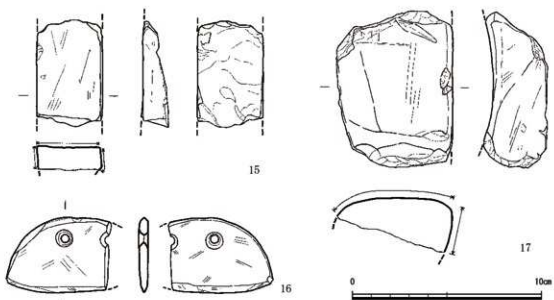
18～25は1号溝、26～31は2号溝から出土した。18は黒曜石製の石鏃である。平面形は三角形で両面に細かく調整を入れる。19は頁岩製の石剣もしくは石鏃か。基部を欠く。頁岩系の岩石を使用し、側面を一周するように刃部を作る。破片が波打っており、刃部の加工も粗いため石剣や石鏃ではなくスクレイパーのような用途で使われた可能性もある。20は泥岩系の仕上げ用砥石と思われる。砥面は5面あり、いずれも擦痕が見られる。21は玄武岩の磨製石斧の基部である。基部を作った後、全体を敲打し形を整える。22は礫石、もしくは台石。23～25は後世の混入品で、23・24は基石。



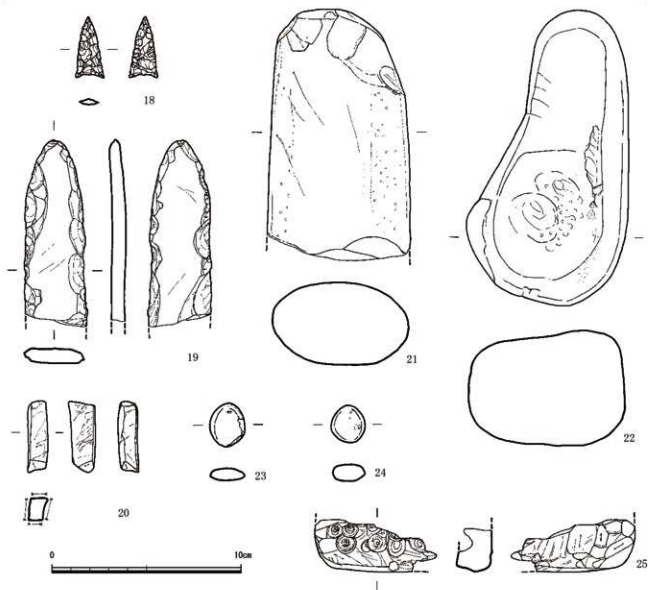
第 45 图 竖穴建物跡出土石器・石製品実測图① (1/2)



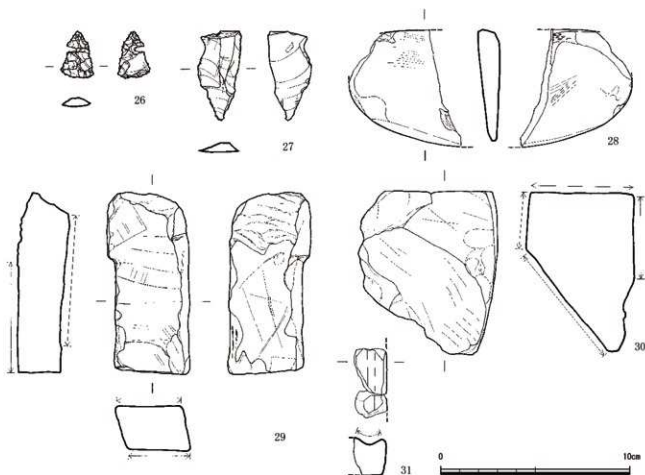
第 46 圖 竪穴建物跡出土石器・石製品実測圖② (1/2)



第47图 竖穴建物跡、土坑出土石器・石製品実測図 (1/2)



第48图 1号溝出土石器・石製品実測図 (1/2)



第49図 2号溝出土石器・石製品実測図(1/2)

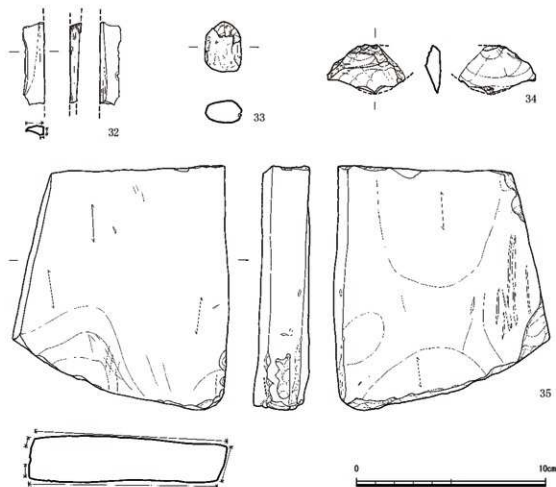
25は用途不明の滑石製品である。石鍋の転用品の可能性が高いが、片面に円錐形の穴が複数開く。26は黒曜石製の石鐮である。平面形は三角形で基部に抉りを入れない。27は黒曜石の縦長剥片である。28は泥岩製の石包丁未製品である。29・30は砥石である。29は砂岩系、30はきめの細かい堆積岩系で石材が他の遺構から出ているものと異なる印象がある。31は砂岩系の玉砥石である。1条溝状の砥面が確認できる。

ピット出土石器・石製品 (32～35)

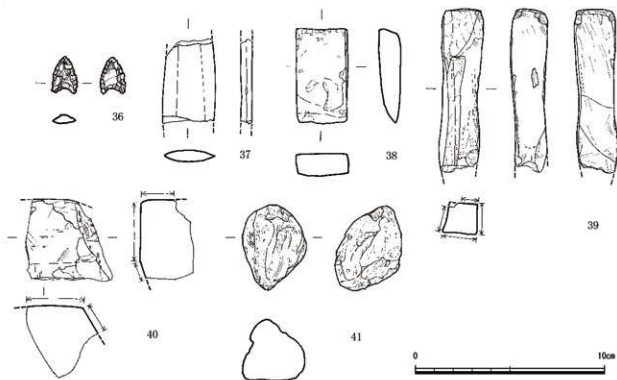
32はP252から出土した。泥岩系の砥石である。大きさが小さく厚みもないことから、仕上げ用の砥石と思われる。砥面は3面確認した。33はP370から出土した軽石。表面に使用痕がみられる。34はP462から出土した。安山岩の横長剥片である。二次加工は見られない。35はP483から出土した。砂岩系の砥石である。平面、断面とも方形状で、4面を砥面として使用する。砥面の一つには筋状の痕跡が見られる。金属類が当たった痕跡か。

検出時出土石器・石製品 (36～41)

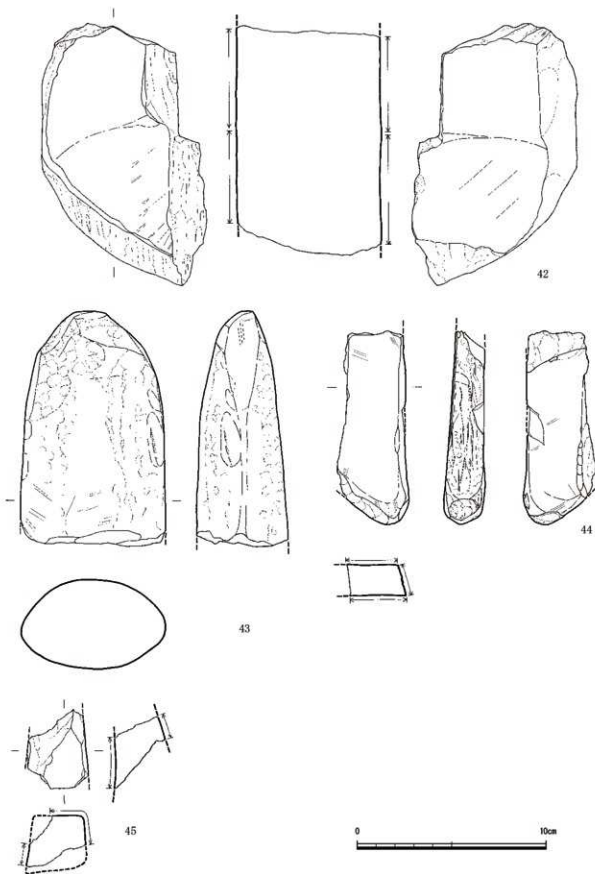
36は小型の黒曜石の石鐮である。平面形は三角形で、基部には小さく抉りを入れる。37は石剣である。両面の刃部を研ぎ出している。38は片刃の扁平磨製石斧である。全体を丁寧に磨いている。石材は頁岩。39・40は砥石である。39は、14・44と非常に石材や調整が似る。4面を砥面として使



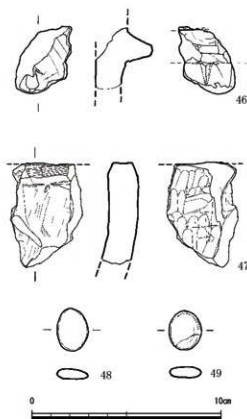
第50図 ビット出土石器・石製品実測図(1/2)



第51図 検出時出土石器・石製品実測図(1/2)



第 52 图 包含层出土石器·石製品実測图① (1/2)



第53図 包含層出土石器・石製品実測図②(1/2)

用し、一部に筋状の工具痕が残る。40は砂岩系の石材で4面を砥面とする。41は軽石である。砥石として使用したとみられ、1つの面に擦ったような痕跡が見られる。

包含層出土石器・石製品 (42～49)

42は砥石と思われるが非常にきめ細かい泥岩系の石材を使用している。43は玄武岩の磨製石斧である。刃部を欠き、全体に粗い敲打痕が残る。44・45は砥石である。14・39と似る。45はほとんど欠損しているが、3面を砥面として使用する。46は滑石製の石鍋である。鏝が付き断面が台形である。外面には煤が付着する。47は石鍋である。内外面に縦方向のケズリ痕が残る。体部はわずかに内湾しながら伸びる。48・49は2号堅穴建物跡の検出時に確認したが、包含層からの混入品と思われる。基石もしくは、おはじきか。円形で薄く、表面は研磨される。

IV まとめ

石尺遺跡では、これまで7次にわたって調査が行われ、1～6次調査は、年報で概要が報告されている。今回の7次調査では、弥生時代中期前半～中頃の溝1条、弥生時代の土坑9基、弥生時代後期前半の堅穴建物跡8軒、弥生時代終末～古墳時代前期の堅穴建物跡9軒と土坑2基、7世紀後半の土坑1基、12～13世紀前後の土坑9基（土墳墓の可能性のあるものを3基含む）、溝状遺構1条を確認した。

本稿では7次調査地の遺構の展開について堅穴建物跡を中心に述べた後、石尺遺跡の集落全体の動向について、周辺の調査状況を踏まえ若干の考察を行いたい。

1 7次調査地内での遺構の展開

弥生時代中期前半～中頃は、摩耗した土器の破片が多量に包含層や遺構覆土から出土するものの、

1号溝以外に遺構を検出できなかった。1号溝は調査区の東部に南北方向で延びており、壁際の土層断面を見ると一度掘り直された可能性はあるが、自然堆積により埋没する。1号溝から約10m西に弥生時代後期前半に3・4・8号竪穴建物跡が造られる。4号竪穴建物跡では、床面から5cm程度浮いた状態で器台3台と小型の壺等が並んだ状態で検出した。壺等は器台に乗せた状態で西に向かって倒置しており、建物の廃棄段階で何らかの祭祀行為を行った可能性がある。4号竪穴建物跡の東に隣接して造られた8号竪穴建物跡は、長軸が8mと7次調査で検出した建物跡の中で最も大きい。また柱穴の位置関係から一度建て直された可能性がある。弥生時代後期後半になると、1・2・5～7号竪穴建物跡が造られる。長軸4～5mのやや南北に長い方形の建物が多い。弥生時代後期末～古墳時代初頭になると10～12、15～17号竪穴建物跡が造られる。古墳時代前期の15号竪穴建物跡が最も新しいが、ここからは器台や台付鉢もしくは台付皿が確認された。また、多量の炭化物と焼土の層を確認しており火災等の発生が疑われる。

竪穴建物跡の全体的な傾向として弥生時代後期前半の建物は長軸7mを超え調査地の西寄りに展開する。後期後半になると調査地全体で建物跡を検出し、6・7号竪穴建物跡が1号溝の上に造られるため、この時期に集落の規模が広がった可能性がある。古墳時代初頭から前半になると、調査地の北にむかって新しい時期の建物跡が展開していく傾向が見える。

古墳時代後期以降の遺構は激減する。調査地西部の10号土坑からは7世紀後半の須恵器が複数出土したが、土器149に刻まれたヘラ記号は、北東36mに位置する古水遺跡3次調査4号土坑出土の須恵器のヘラ記号に酷似する。

2号溝、11・12、14～17号土坑は出土遺物から12～13世紀前後と思われる。11号土坑は13世紀以降に埋没しているが、断面形から12号土坑と同様の機能を持っていたと考えられる。また陶磁器の小片や土師皿の小片を含むピットが複数あるため、本来はこれらの土坑と同時期に掘立柱建物跡が並んでいた可能性が高い。遺構の性格がわかるものは少なく、11・12号土坑は、形態から井戸の可能性が高いが木枠等が出ていないことから断定はできない。また15～17号土坑は土壌墓と思われるが副葬品はなく断定できない。2号溝も溝とは称しているが溝状遺構とした方が正しい。11号土坑に関連する遺構と思われるが、他の遺跡で類似する遺構を見つけれなかった。中世の遺構や包含層からは、白磁の他、龍泉窯系青磁や同安窯系青磁等の貿易陶磁が多く出土した。

2 石尺遺跡内での集落の展開

地形は、4・5次調査が最も標高が高く37.5m、3次調査が最も低く37.0m前後である。遺構は標高の高くなる西南部に集中する。

弥生時代中期前半が初見で、3次調査で小型で方形の建物跡が確認される。弥生時代中期中頃になると遺構が増え始め、円形と長方形の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝が確認される。竪穴建物跡は、円形のもの（直径5m前後と直径10m前後）が2・4・5次調査で、長方形のもの（3.5m×2.5

m前後の規模)が1～3・5次調査で確認される。溝は、1・2・5・7次調査で検出され、5次調査では、南東部で南西から北東方向に延びる自然流路を確認している。1・2次調査の調査区東端には、この自然流路と直行して北西方向に延びる溝が掘られ、自然流路の南側とこの溝の東側では極端に遺構密度が下がる。自然流路と溝の埋没時期は、弥生時代中期中頃から後期後半である。7次調査では弥生時代中期中頃に埋没した1号溝を検出している。1・2次調査の溝が北西に延びるのに対し、7次調査の1号溝は北東方向に延びる。これらの溝はいずれも、幅2.5～2.8m、深さ50cmを測り、断面形はU字状である。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、現段階では1・2次調査地の東端の溝と7次調査の竪穴建物跡しか確認されていない。

古墳時代後期になると、2・5次調査地の中央部で南北方向に延びる溝と、2次調査でこの溝の西側に並行して延びるL字状の細い溝が見つかった。これらの溝は6世紀末に埋没する。この溝以西から一辺5m前後の方形竪穴建物跡や、土坑が検出される。

飛鳥～奈良時代は遺構の密度自体が低く、2・5・7次調査で土坑が1～2基確認されるのみである。5次調査の土坑から新羅系の土器、1次調査の包含層から8世紀前後の土器が確認された。

中世以降は、3次調査で東西方向に延びる溝、7次調査で土坑を検出しているが集落としての詳細は不明である。

3 考察

以上のことから、当遺跡では弥生時代中期前半に集落が作られ、南東部の自然流路を南限として展開する様子がみえる。遺構密度などから、当初は自然流路の西側(現在の春日西小学校付近)の微高地が集落の中心であり、集落の東側は自然流路から北に延びる溝によって、集落の内と外が区分される。この溝は7次調査の1号溝に続き、集落を囲う環濠となる可能性もあるが、環濠として考えるには溝の規模が小さいことや、7次調査の1号溝が直線的に延びた場合、溝以西に大型の竪穴建物跡(4次調査)があるため可能性は低いと思われる。7次調査の1号溝については、集落の内外を示す溝ではなく、集落内部に何らかの用途で掘られた可能性が高い。自然流路と溝は弥生時代中期中頃から後期後半に埋没し、弥生時代後期後半になると、7次調査地点付近に竪穴建物跡が集中する。周辺の調査歴が不足しているため断定はできないが、集落の中心が7次調査地点以北に移った可能性がある。この集落は、建て替えを行いながら古墳時代前期まで継続したと考えられる。

6世紀以降の遺構はまばらではあるが、出土遺物から考えると少なくとも6世紀後半から7世紀前半、8世紀前後、12～13世紀に集落が展開したと思われる。遺跡の性格等については、資料が不足しており現段階で検討することは難しい。

弥生時代後期後半から古墳時代初頭および、6世紀後半以降の集落の性格と動向については、今後の調査の増加を待ち、改めて考察を行いたい。



第54図 石尺遺跡遺構配置図 (1/1,000)

表4 石尺遺跡7次調査出土石器・石製品観察表

番号	採戻 図版	種別	出土位置	測量				石材	備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	第45図 図版21	礫石	12号型穴建物跡	7.5	5.25	3.45	175.0	砂岩	小片
2	第45図 図版21	礫石	12号型穴建物跡	5.1	3.8	2.0	24.4	凝灰岩	小片
3	第45図	石鏃 (未製品)	12号型穴建物跡	1.7	1.3	0.2	0.4	黒曜石	先端部
4	第45図 図版20	石包丁	2号型穴建物跡	6.1	4.3	0.7	18.6	泥岩	小片
5	第45図 図版20	石鏃	3号型穴建物跡	2.55	1.9	0.3	1.2	黒曜石	ほぼ完形
6	第45図 図版20	石包丁	4号型穴建物跡	12.8	5.2	0.5	50.5	泥岩	1/2
7	第45図 図版20	石包丁	4号型穴建物跡	10.7	4.8	0.6	49.5	砂岩	1/2
8	第45図	刮片	4号型穴建物跡	3.1	1.65	0.45	2.4	黒曜石	小片
9	第46図 図版21	礫石	15号型穴建物跡	15.25	10.0	2.0~6.7	1065.7	砂岩	1/2程度か
10	第46図 図版21	玉礫石	14号型穴建物跡	4.25	5.0	2.3	44.9	砂岩	—
11	第46図	二次加工刮片	5号型穴建物跡	2.75	1.3	0.6	1.6	黒曜石	—
12	第46図 図版21	石斧	7号型穴建物跡	7.15	7.75	5.4	591.1	玄武岩	小片
13	第46図 図版22	礫石	7号型穴建物跡	8.15	4.7	4.7	256.9	砂岩	小片
14	第46図 図版22	礫石	7号型穴建物跡	7.0	2.25	2.3	46.4	泥岩	小片
15	第47図 図版22	礫石	8号土坑	5.6	3.5	1.3	41.0	砂岩	—
16	第47図 図版20	石包丁	10号型穴建物跡口	5.6	4.0	0.5	16.5	凝灰岩 (角閃石を含む)	2/3?
17	第47図 図版22	礫石	18号土坑	8.2	6.15	2.9	144.3	泥岩	小片
18	第48図 図版20	石鏃	1号溝	3.25	1.5	0.3	1.3	黒曜石	完形
19	第48図 図版20	石鏃か石鏃	1号溝	9.9	3.4	0.8	46.9	頁岩	刀先の破片
20	第48図	礫石	1号溝	3.8	1.1	1.25	9.1	泥岩か	小片
21	第48図 図版21	石斧	1号溝	13.3	7.6	4.4	788.2	玄武岩	基部の破片
22	第48図 図版22	礫石か台石	1号溝	17.6	8.6	6.1	1093.8	—	完形
23	第48図 図版23	礫石	1号溝	2.35	1.85	0.7	4.2	—	完形
24	第48図 図版23	礫石	1号溝	2.0	1.8	0.9	4.9	—	完形
25	第48図 図版23	石鏃の 二次加工品か	1号溝	2.75	6.45	2.3	44.0	滑石	小片
26	第49図 図版20	石鏃 (未製品)	2号溝	2.5	1.8	0.5	1.6	黒曜石	ほぼ完形
27	第49図 図版20	縦長刮片	2号溝	4.7	2.3	0.5	5.3	黒曜石	小片

番号	神保 図版	類別	出土位置	法量				石材	備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
28	第49図 図版20	石包丁	2号溝	6.2	6.2	1.15	37.1	泥岩	小片
29	第49図 図版22	砥石	2号溝	9.6	4.4	2.4	187.4	砂岩	小片
30	第49図 図版22	砥石	2号溝	8.7	7.3	5.7	409.4	堆積岩系	小片
31	第49図 図版21	玉砥石	2号溝	3.6	1.75	2.05	13.6	砂岩	小片
32	第50図 図版22	砥石	F252	4.3	1.1	0.5	3.7	泥岩	完形
33	第50図 図版23	軽石	F370	2.6	1.9	1.2	2.5	軽石	—
34	第50図 図版20	横長削片	F462	4.1	2.55	0.85	7.1	安山岩	小片
35	第50図 図版22	砥石	F483	12.85	11.4	2.5	639.7	砂岩系	—
36	第51図 図版20	石鏃	4号型穴建物跡 検出時	1.95	1.35	0.5	0.9	黒曜石	完形
37	第51図 図版20	石剣	8号型穴建物跡 検出時	4.5	2.75	0.6	12.4	砂岩	小片
38	第51図 図版20	扁平磨製石斧	1号型穴建物跡 検出時	5.0	2.8	1.2	32.0	頁岩	小片
39	第51図 図版22	砥石	検出時	8.6	2.3	1.6	55.8	泥岩	—
40	第51図 図版22	砥石	検出時	4.3	4.6	3.8	74.3	砂岩	—
41	第51図 図版23	軽石	5-15号型穴建物跡 検出時	4.5	3.4	3.5	37.7	軽石	—
42	第52図 図版22	砥石	包含層	13.8	8.7	7.6	1377.0	堆積岩系	小片
43	第52図 図版21	大型蛤刃石斧	包含層	12.35	7.7	4.7	748.1	玄武岩	小片
44	第52図 図版22	砥石	包含層	10.2	3.9	2.15	113.8	泥岩	—
45	第52図	砥石	包含層	4.2	3.3	2.75	26.5	泥岩①	—
46	第53図 図版23	石鏃	包含層	3.5	2.95	3.0	30.1	滑石	小片
47	第53図 図版23	石鏃	包含層	5.5	3.8	1.85	51.2	滑石	小片
48	第53図 図版23	基石	包含層	2.3	1.6	0.6	3.1	—	完形
49	第53図 図版23	基石	包含層	2.1	1.7	0.6	3.1	—	完形

圖 版



(1) I区全景 (東から)



(2) II区全景 (東から)



(1) 1号竖穴建物跡 (北から)



(2) 2号竖穴建物跡 (北から)



(3) 1・4号竖穴建物跡 (北から)

(1) 4号竪穴建物跡土器出土状況
(西から)



(2) 7号竪穴建物跡 (南から)



(3) 2・8号竪穴建物跡 (西から)





(1) 11号竖穴建物跡 (南から)



(2) 12号竖穴建物跡 (南から)



(3) 5・15号竖穴建物跡 (北から)

(1) 15号竪穴建物跡床面遺物

出土状況(北から)



(2) 10・16号竪穴建物跡(北から)

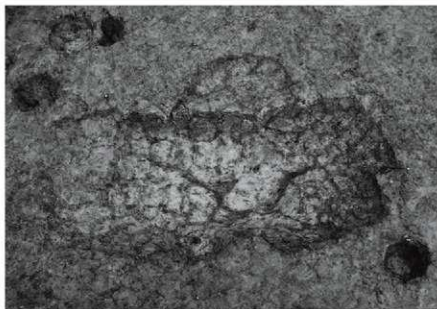


(3) 1号土坑(南から)





(1) 4号土坑・P79 (北から)



(2) 6号土坑 (南から)



(3) 8号土坑 (北東から)

(1) 10号土坑 (北から)



(2) 11号土坑 (北から)



(3) 11号土坑土器出土状況 (北から)





(1) 12号土坑 (北から)



(2) 14号土坑 (北から)



(3) 15号土坑 (南東から)

(1) 1号溝 (北から)



(2) 1号溝 B-B' 断面土層 (北から)



(3) P 1 鉄器出土状況 (北から)





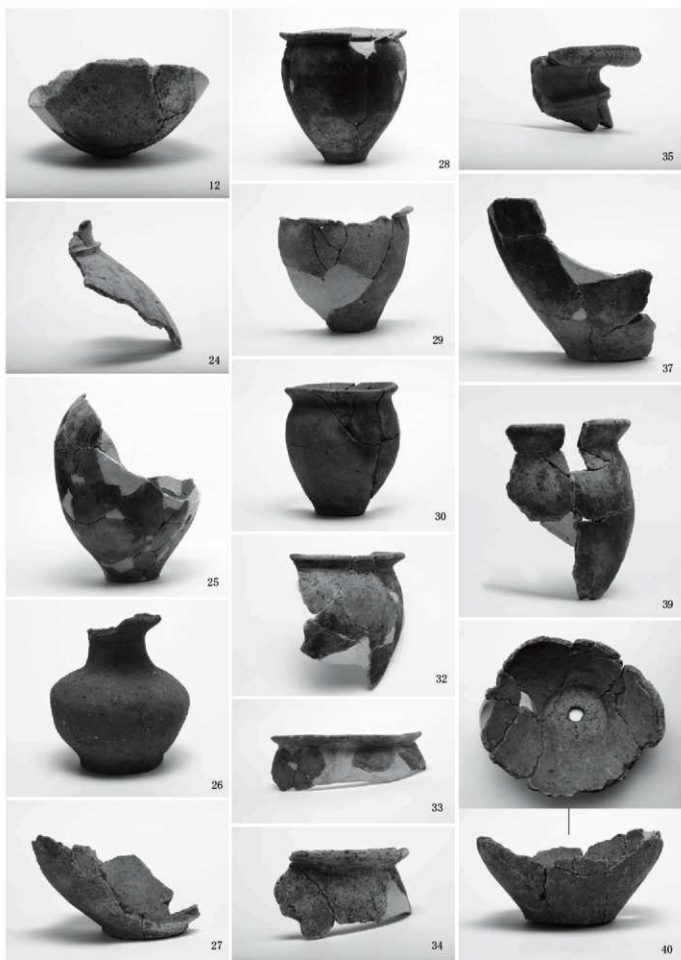
(1) P67 鉄器出土状況 (西から)



(2) P78 土器出土状況 (東から)

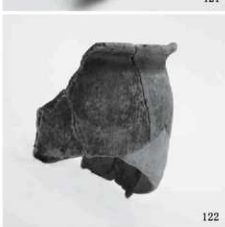
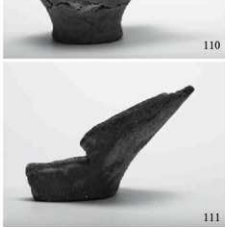
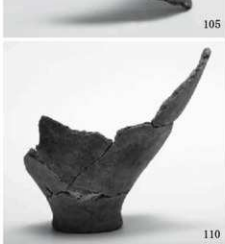


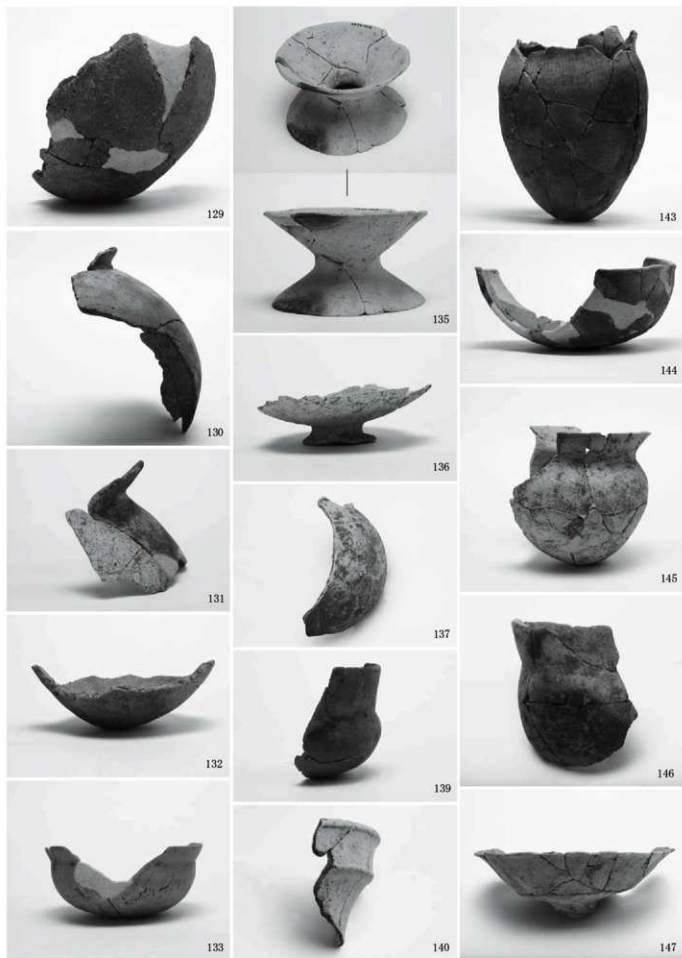
(3) P454 土器出土状況 (北から)

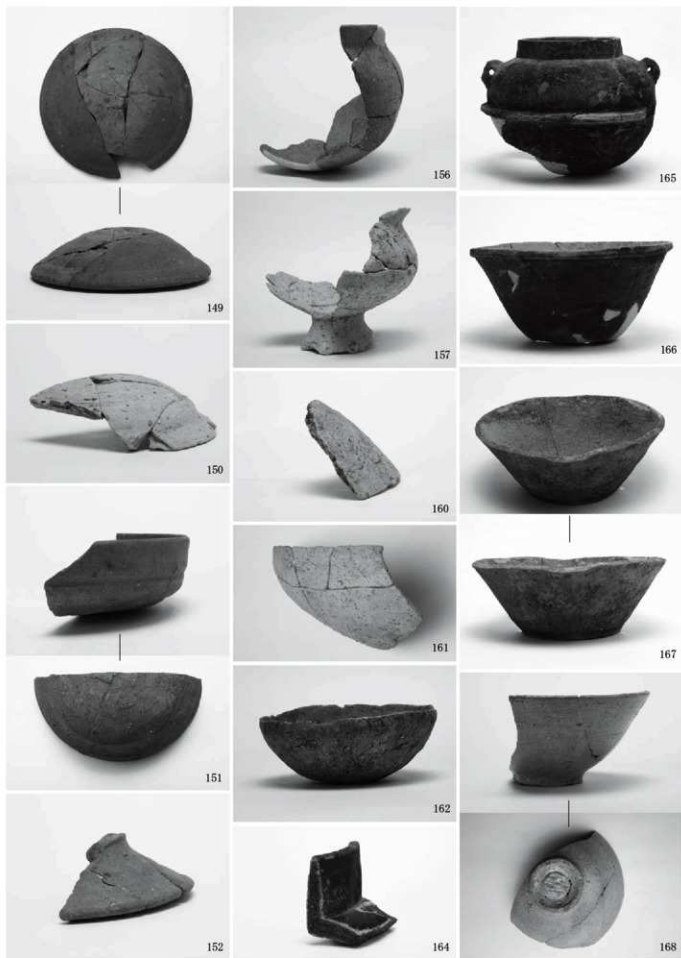




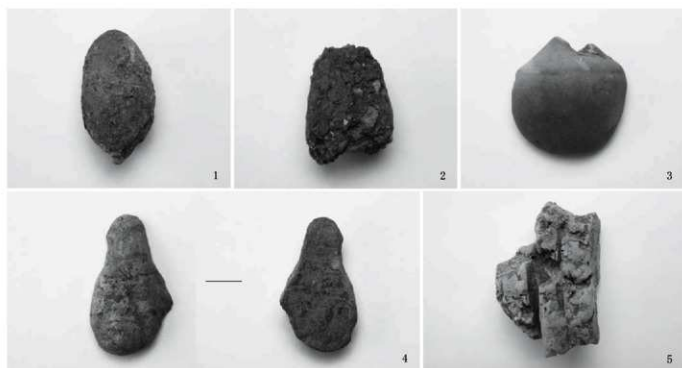




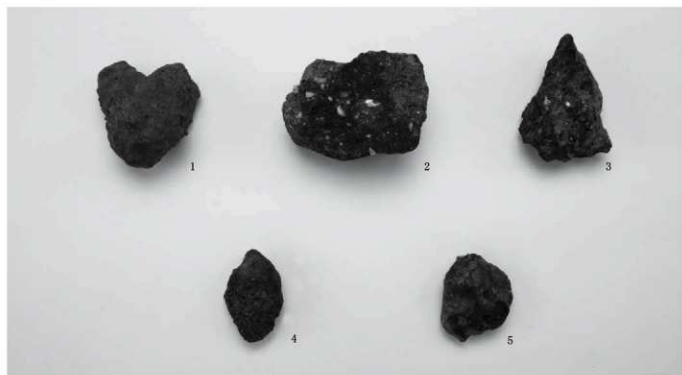








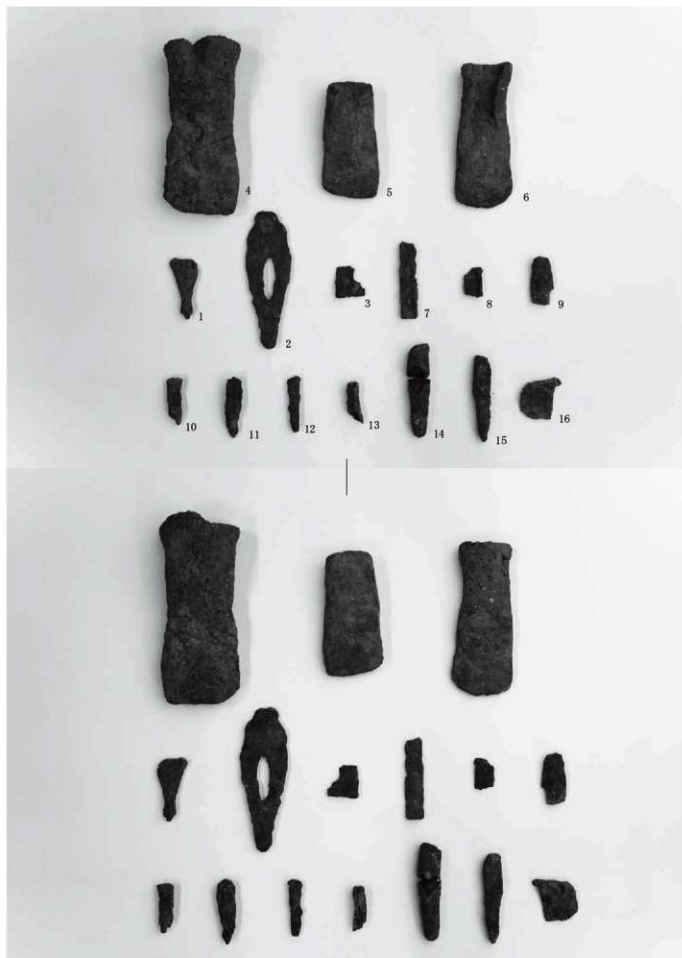
(1) 土製品



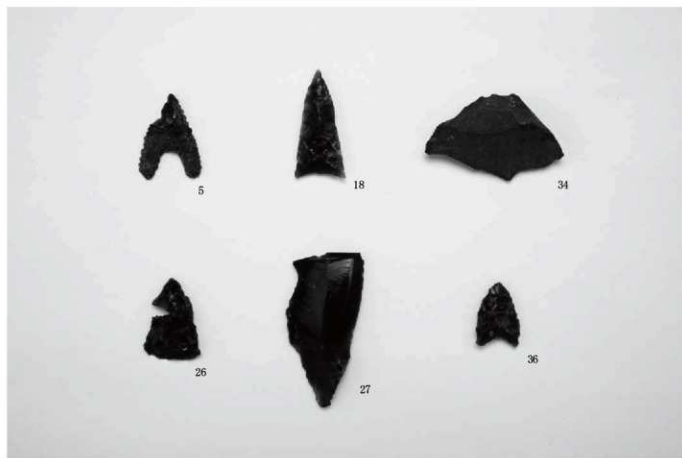
(2) 鉄滓



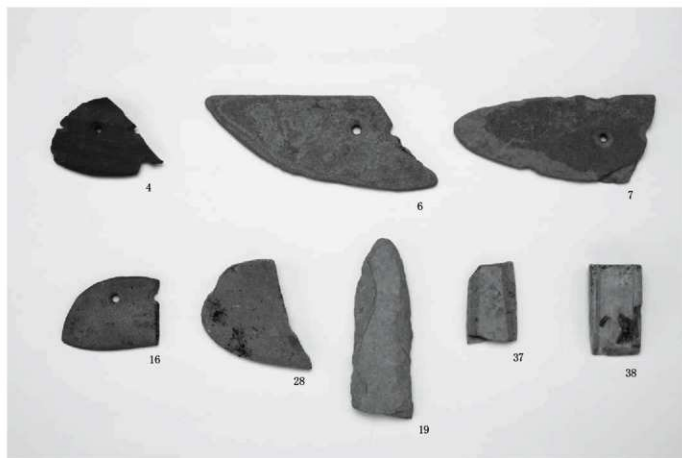
(3) 管玉



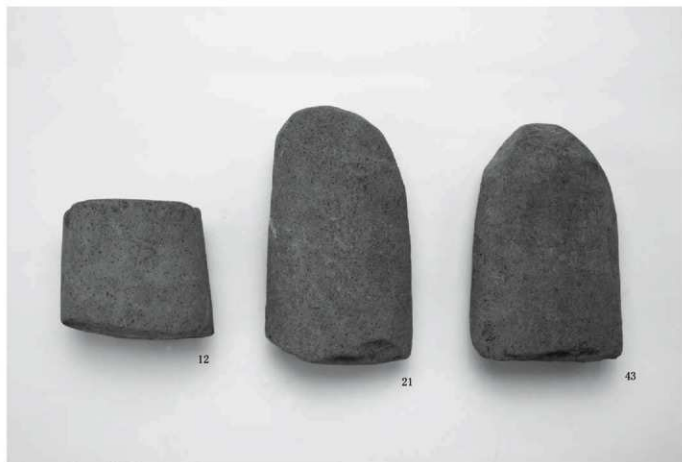
铁器



(1) 石器・石製品①



(2) 石器・石製品②



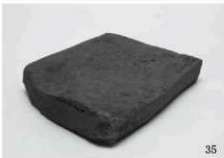
(1) 石器・石製品③



(2) 石器・石製品④



(3) 石器・石製品⑤



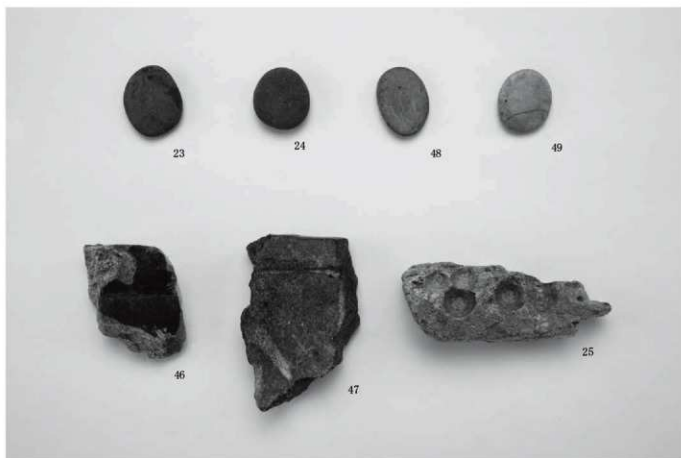
(1) 石器・石製品⑥



(2) 石器・石製品⑦



(1) 石器・石製品⑧



(2) 石器・石製品⑨

報告書抄録

ふりがな	こくじゃくいせき ななじちようさ
書名	石尺遺跡 —7次調査—
副書名	福岡県春日市下白水南所在遺跡の調査
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第87集
編著者名	山崎悠都子
編集機関	春日市教育委員会
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111
発行年月日	2021年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
こくじゃくいせき 石尺遺跡 7次調査	福岡県春日市下白水南	40218		33° 31' 29"	130° 26' 32"	20170410 ～ 20171017	616.0	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石尺遺跡 7次調査	集落	弥生時代 古墳時代 古代 中世	竪穴建物跡 17軒 土坑 21基 溝 2条 ピット 多数	弥生土器・須恵器・ 土師器・輸入陶磁 器・土製品・石器・ 鉄器	弥生時代中期前半の溝上に、 弥生時代後期から古墳時代前期 の集落が展開する。

要約	<p>石尺遺跡は、奴国最大の集落である須玖遺跡群が確認される春日丘陵から、谷を挟んだ西の中位段丘上に所在する遺跡である。周囲には、南西に弥生～古墳時代の集落を主体とする門田遺跡や天神ノ木遺跡、中世の豪族の居館跡が見つかった中白水遺跡があり、石尺遺跡もその一群に含まれる。</p> <p>1～6次調査については未報告のため詳細は不明だが、弥生時代中期前半と古墳時代後期、奈良時代の集落を主体とする遺跡と考えられている。</p> <p>7次調査では石尺遺跡の北部に位置し、弥生時代中期前半の溝、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡、弥生～中世の土坑、12世紀前後の溝状遺構、ピット多数を検出した。</p> <p>今回の調査によって当遺跡ではこれまで資料の少なかった弥生時代後期から古墳時代前期の集落の展開を考える上で重要な成果を得ることができた。</p>
----	---

石尺遺跡

— 7次調査 —

春日市文化財調査報告書 第87集

2021年3月31日

発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 大道印刷株式会社
福岡県春日市日の出町6丁目23
